那覇市文化財調査報告書 第 94 集

那 覇 市 内 遺 跡 V

― 崎樋川貝塚 B ―

2012 年 3 月

那覇市教育委員会

那覇市文化財調査報告書 第九十四集 那覇市内遺跡V 二〇一二年三月 那覇市教育委員会

那覇市文化財調査報告書第９４集

那覇市内遺跡Ⅴ

―崎樋川貝塚Ｂ―

2012年３月

那覇市教育委員会

巻首図版　上：調査地全景　下：遺物の出土状況

序

この報告書は、「個人住宅建設事業」に伴って行われた崎樋川貝塚Ｂの緊急発掘調査成果を収録したものです。

崎樋川貝塚Ｂは平成19年度に実施したものです。県指定の史跡として著名である崎樋川貝塚に近接する場所での調査で、土器・貝製品・石器等、那覇における先史時代の史料の追加をすることができました。

この報告書が文化財愛護思想の高揚、さらには諸開発計画における保存協議の円滑な推進に寄与することを期待しつつ、多くの方々に有効に活用されますことを希望するものであります。

末尾になりましたが、発掘調査作業に従事していただいた皆様、その他多くの関係者の方々の多大なご協力に対しまして深く感謝いたします。

平成24年３月

那覇市教育委員会
教育長　城間　幹子

例　言

１．本報告書は、那覇市教育委員会が国の補助を受けて平成19年度に実施した「崎樋川貝塚B」の緊急発掘調査の成果を収録したものである。

２．第１図上に使用した図は、坂本幸雄　株式会社　ティービーエス・ブリタニカ『ブリタニカ国際地図』1991年７月１日（第２版改訂発行）の91ページの部分をトレースして使用した。

３．第１図下に使用した地図は、平成21年11月１日、国土地理院発行の那覇市全図（部分）を使用した。

４．第２図に使用した地図は、米軍作成地形図（1947・1948撮影の航空写真をもとに1948年作成）の一部を使用した。

５．第３図に使用した地図は、昭和63年12月　那覇市資産税課発行『那覇市現況・地籍併合図』２（1/500）（部分）をトレースして使用した。

６．遺物実測図の番号と写真図版の遺物番号は一致するように配置してある。

７．本報告書の執筆は玉城が行った。編集は、渡辺幸夫、国吉真由美、石原愛子の協力を得、玉城が行った。

８．出土遺物は那覇市教育委員会文化財課で保管している。

那覇市内遺跡Ⅴ

目　　次

巻首図版

序
例言
第Ⅰ章　調査に至る経緯
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
第Ⅲ章　調査体制と調査経過
第Ⅳ章　層序
第Ⅴ章　遺物
第Ⅵ章　総括

挿図目次

第１図　那覇市および遺跡の位置
第２図　遺跡周辺の古地図
第３図　調査区の位置
第４図　調査区平面図
第５図　土層断面図
第６図　土器口縁部
第７図　土器口縁部
第８図　土器底部
第９図　貝錘
第10図　貝錘
第11図　貝錘
第12図　貝錘
第13図　貝錘
第14図　貝輪、有孔製品
第15図　貝匙
第16図　石斧、骨製加工品

挿表目次

第１表　土器出土一覧
第２表　土器観察一覧
第３表　貝製品観察一覧
第４表　石器観察一覧
第５表　骨製加工品観察一覧
第６表　貝類遺存体出土一覧
第７表　魚類遺存体出土一覧
第８表　棘皮動物出土一覧
第９表　甲殻類出土一覧
第10表　軟体動物出土一覧
第11表　フジツボ類出土一覧
第12表　ウミガメ出土一覧
第13表　イノシシ出土一覧
第14表　イノシシ歯出土一覧
第15表　鳥類出土一覧
第16表　不明獣骨出土一覧
第17表　種不明骨出土一覧

図版目次

図版１　調査地区の状況
図版２　調査地区の状況
図版３　土器口縁部
図版４　土器口縁部
図版５　土器底部
図版６　貝錘
図版７　貝錘
図版８　貝錘
図版９　貝錘
図版10　貝錘
図版11　貝輪、有孔製品
図版12　貝匙
図版13　石斧、骨製加工品

第Ⅰ章　調査に至る経緯

本遺跡は、那覇市大字天久樋川原に所在する。平成19年、当該地所有者である有限会社那覇葬祭から那覇市へ、セレモニーホール（葬儀施設）建設に係る建築確認申請が出され、同年５月に建築確認がなされ工事が開始された。

平成19年７月、那覇市教育委員会職員が偶然その工事現場において大規模な採砂が行われているのを見かけ、これが周知の文化財の近くでの工事が行われているとの情報として埋蔵文化財担当へもたらされ、現地を踏査、遺跡を発見したことに端を発する。

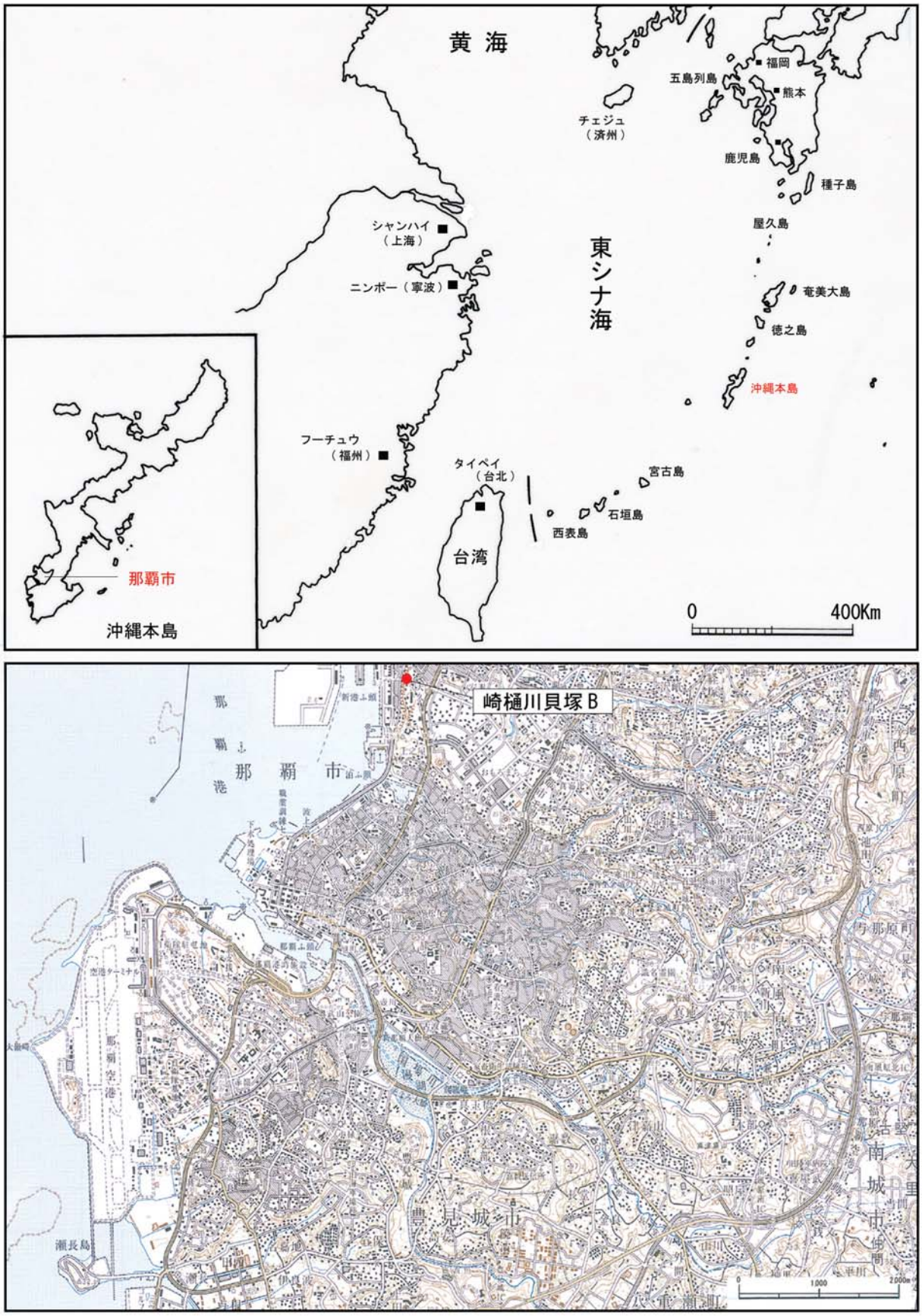
那覇市教育委員会では文化財の保護と周知を目的として、那覇市の開発部局との申し合わせで平成18年度より「建築確認申請の事前合議先一覧」に埋蔵文化財の確認欄の掲載を設けており、建築工事等の開発における指導を図っているところであるが、ただし、この場合「埋蔵文化財を包蔵する土地として周知されている土地」との条件が付されている。当該事業地は、周知の埋蔵文化財「崎樋川貝塚」の包蔵地に近接しているものの、指定範囲外であることや既存の建物があったことなどにより、建築確認の際の文化財についての合議が行われなかったのである。

さて、かかる情報が当教育委員会にもたらされ現地を検分した時点ではすでに基礎部分の工事を終えた後であった。申請地の土砂の大半は、掘削され、さらに縦横に張られたコンクリートの基礎や梁などの建物躯体構により穿たれ分断された状態にあって、それらを辛うじて免れた数か所の砂地がこんもりとした饅頭のような砂の土手として残されていた。これらの土手の法面には黒い遺物包含層が確認でき、土器や貝殻が散見された。ここで遺跡の包蔵域であると判断。ただちに事業者と那覇市教育委員会とで取扱いについて協議を行った。

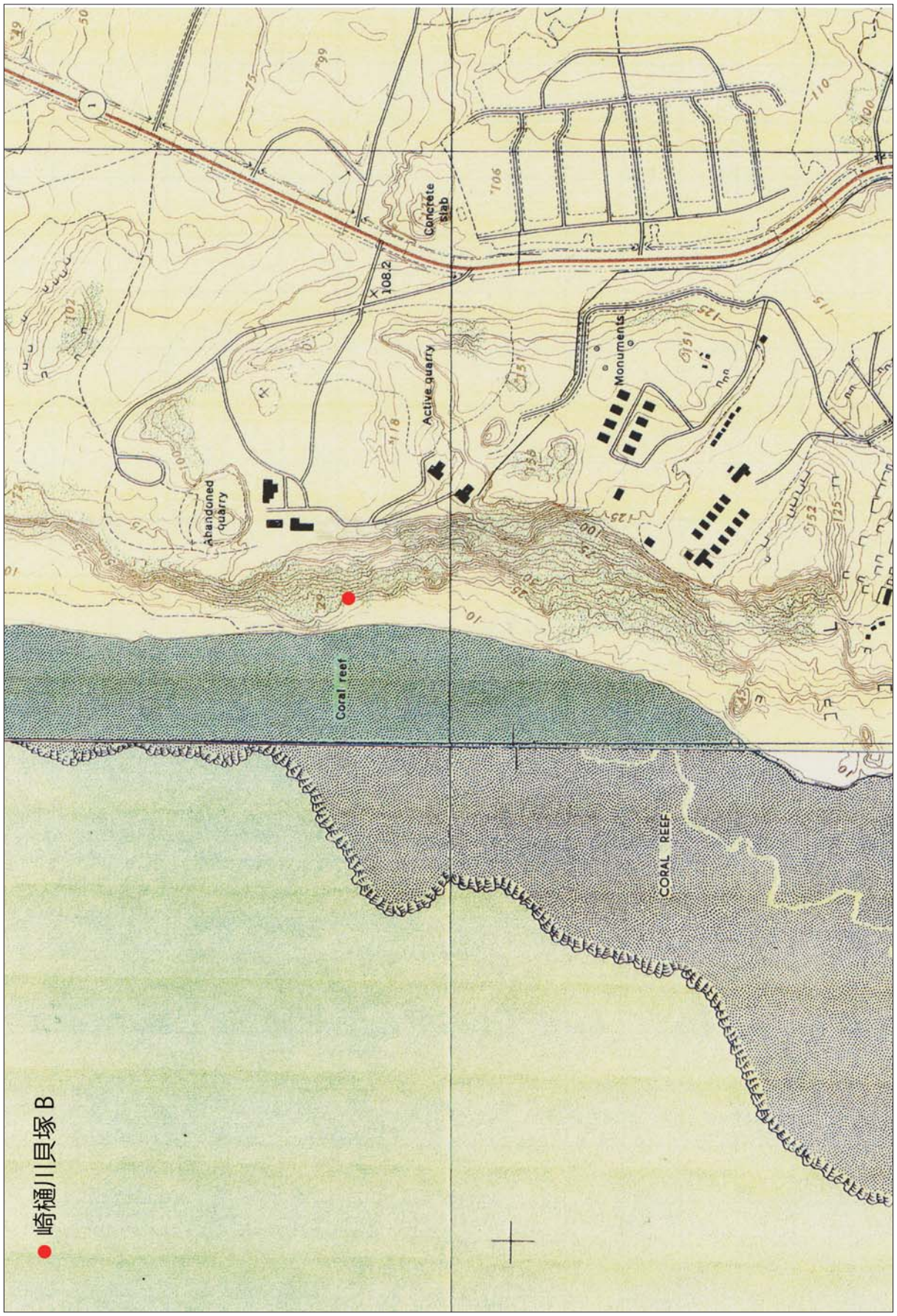
事業者には遺跡との認識のないまま掘削を行い、その事前連絡の遅れた事、また那覇市において結果的に十分な指導の及ばなかったこと、さらに今回の発見により当該申請地が埋蔵文化財包蔵地であり、文化財保護法にもとづく適切な手続きが必要であることをまず確認した。

その上で当該事業の変更や遺跡の現状での保存が難しいこと、当該事業者が発掘調査に応じること、零細事業者であること、当該事業が葬祭に供する施設として公共性が高い施設であり、早急な対応が必要と判断された。以上のことに鑑みて、県文化課とも協議のうえ、国庫補助金による緊急の発掘調査を実施するとの結論に至った。

発掘調査は平成19年７月23日より開始することとした。



第１図　那覇市および遺跡の位置



第 2 図　遺跡周辺の古地図

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

本遺跡の所在する那覇市は沖縄本島南部に位置し、平成23年1月末現在、面積約39.23㎢、総人口318,658人（註１）と県内最大の人口を誇る県庁所在都市である。市域は東シナ海に西面し、北は浦添市、北東に西原町および南風原町、南に豊見城市に接する。

本遺跡は、那覇市字天久に所在する。同地域は北の浦添市に近接しており、ここを戦後沖縄の発展を支えた大動脈国道58号が縦断し、やはり物流の拠点として開かれた那覇新港を擁し、さらに近年泊大橋や沈埋トンネルが繋がったことで、港や空港への中北部からのアクセスも容易になり、今後益々経済的重要度の増すことが予想される地域である。

さて、遺跡付近をみてみると、遺跡は那覇市北方に広がる天久高台の西の縁に当たる。天久高台は琉球石灰岩の発達が顕著な高台であり、若干の起伏を持ちながら北の安謝川、南の安里川に挟まれた広大な面積を有する。この台地西端では南北に切り落とされた急峻な崖地となって東シナ海に面している。遺跡はその崖下の斜面中腹から下位へかけて、海へと至る砂丘上に形成される。砂丘から西側は戦後埋め立てられて那覇新港となっており、海岸線は遠く西へ移動しているが、昭和三十年代頃までは現在遺跡に隣接する道路の西方側付近が汀線となっており、そこから沖へは遠浅のリーフが広がっていた。1948年に米軍によって作成された地図（第２図）からは、本遺跡周辺の往時の地形を窺うことができる。

「崎樋川貝塚」いう遺跡名については、ここから崖沿いに南へ約300ｍいった崖下のほぼ同じ稜線上に崎樋川（さちひじゃー）と呼ばれる近年まで水量の豊富であった井泉があり、その名を冠したことによる。遺跡は県指定の史跡となっており、その名称も崎樋川貝塚である。

ちなみに崖中腹部分の遺跡と下部の砂丘地のそれとは出土遺物の違いから、前者は縄文時代後期、後者は沖縄貝塚時代後期に所属する時期の別の遺跡と考えられ、前者を崎樋川貝塚Ａ、後者を崎樋川貝塚Ｂと呼称する場合もある。その経緯について以下に簡記した。

崎樋川貝塚

崎樋川貝塚は、先述のとおり崖下中腹に位置する県指定の史跡である。昭和７年に島田貞彦により発掘調査が実施されている（註２）。その調査によれば伊波式土器や荻堂式土器（現在の伊波式や荻堂式の土器型式概念とはやや異なる）や貝製品や骨製品が出土。中でもとりわけ蝶形骨器が有名である。そのほか小型犬の遺存骨も検出されており、往時における狩猟犬の存在が指摘されている（註３）。なお、史跡としての指定の正式名称は先述のおり「崎樋川貝塚」であるが、後年、遺跡下方において所属時期が異なる後代の別の遺跡の存在が明らかとなったため、これと区別する意味で一般に崎樋川貝塚Ａとも称される。

崎樋川貝塚Ｂ

昭和39（1965）年、火葬場施設建築工事に伴う掘削の際に斜面下部の土手面や近接する琉球石灰岩塊周辺において貝を伴った遺物包含層の露頭によりその存在が確認され、翌年高宮廣衛氏によって小規模の発掘調査が実施されている（註４）。

崎樋川貝塚の下方において後代の土器の出土することは多和田真淳氏に注意された如く（註５）、比較的早くから知られていたようであるが、高宮氏の調査でも無文化の傾向の強い沖縄貝塚時代後期の土器、貝錘、貝匙、貝輪などの貝製品や石器が出土している。これらの出土遺物特に土器の特徴は上方の崖中腹の発掘調査出土遺物の特徴と異なるものである。高宮氏は、時期の異なる二つの遺跡が近接併存することが明らかになったとしてここを崎樋川貝塚Ｂと命名している。

今回の調査地点はこの貝塚Ｂの出土遺物の内容に近似しており、位置的にも近いことから、本稿でも崎樋川貝塚Ｂの範囲の一部としてこれを呼称することにする。

註

１．那覇市統計情報（那覇市ホームページ）『広報なは 市民の友』第722号 2011年３月

２．島田貞彦「琉球崎樋川貝塚」『歴史と地理』第三十巻第五号 昭和７年

３．三宅宗悦「琉球崎樋川貝塚出土家犬に就いて」『人類学雑誌』第四十七巻第十号 昭和7年

４．高宮廣衛「那覇市の考古資料」『那覇市史』資料篇 第一巻一 昭和43年 那覇市役所歴史資料室

５．多和田真淳「琉球列島の貝塚分布と編年の概念」『文化財要覧』1956年 琉球政府文化財保護委員会

第Ⅲ章　調査体制

発掘調査および報告書作成は次の体制により実施された。

事業主体	那覇市教育委員会　教 育 長		桃原　致上	（平成19年度）
			城間　幹子	（平成23年度）
事業所管	那覇市教育委員会　文化財課	課　　長	古塚　達朗	
調査総括		副 参 事	島　　弘	
事業事務		主　　査	田端　睦子	（平成19年度）
		主　　幹	内間　　靖	（平成23年度）
		主　　査	會澤　一大	（平成23年度）
		主任主事	赤嶺　増美	（平成19年度）
		主任主事	仲宗根　健	（平成23年度）

調 査 員　　文化財課　　主　　幹　内間　　靖（平成23年度）
専門員主査　玉城　安明
専門員主査　北條　真子
主任専門員　仲宗根　啓
主任専門員　樋口　麻子
主任専門員　當銘　由嗣
専　門　員　知念　政樹

発掘作業員

喜瀬 彰・呉屋 嘉仁・伊佐 真祐・高良 淳・橋本 圭司・当真 哲
平良 祐人・下地 元光　（以上、平成19年度）

資料整理

大城 亜姫代・東江 美矢子・仲宗根 美奈子・當眞 かおり・比嘉 えみ
新城 京美・仲松 真智子・徳元 桐子・大城 美登里・運天 マキ
池田 一美・高嶺 知子（以上、平成23年度）

資料整理作業全般に亘って下記のメンバーの指導・協力を仰いだ。

渡辺 幸夫・国吉 真由美・石原 愛子

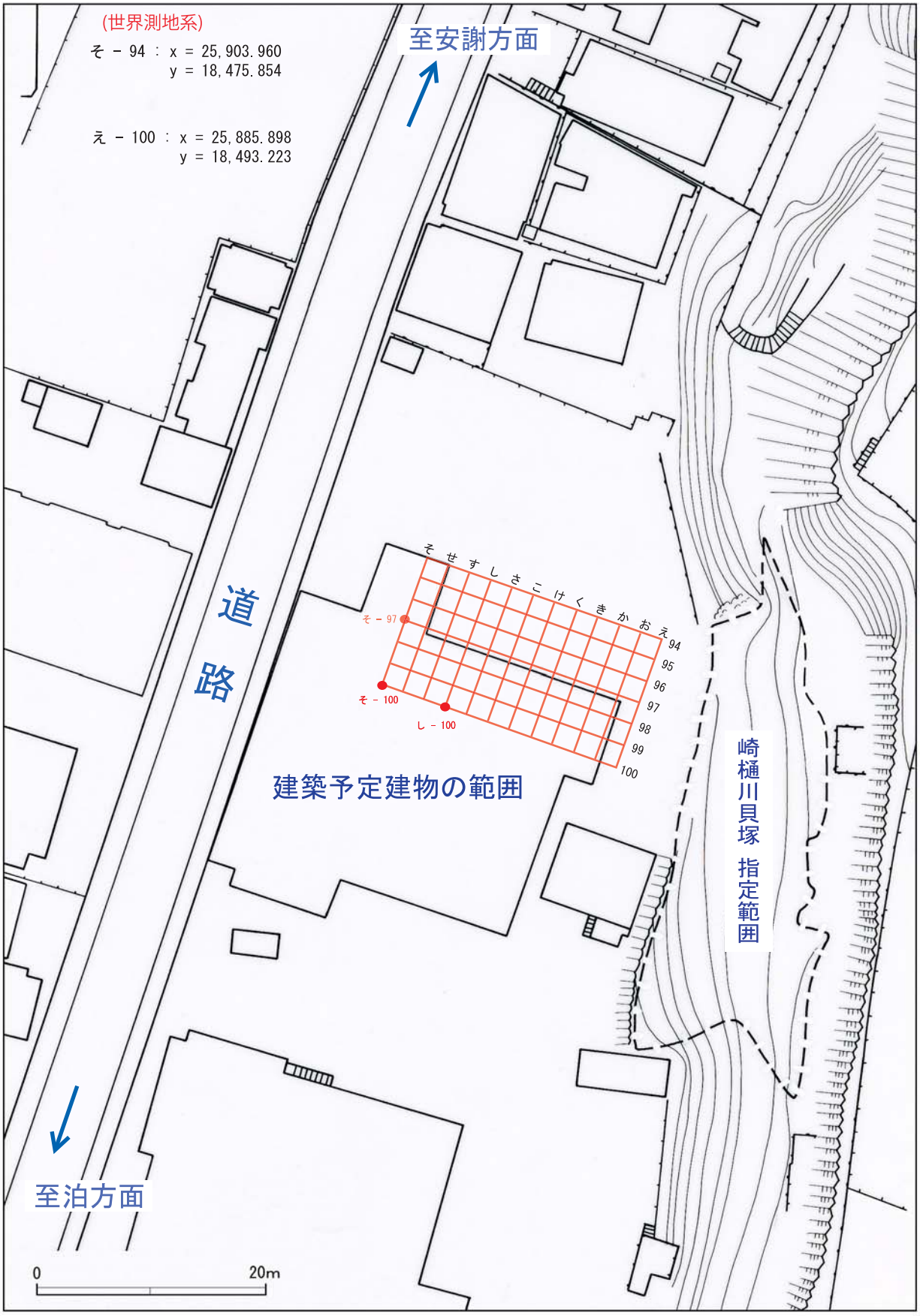
第Ⅳ章　調査経過

発掘調査は平成19年７月23日から８月３日までの期間で実施した。前章で触れたとおり、発見の時点で建築工事現場内であったこと、加えて工事が並行して進められているなかであったため、思いのほか調査は制約された。

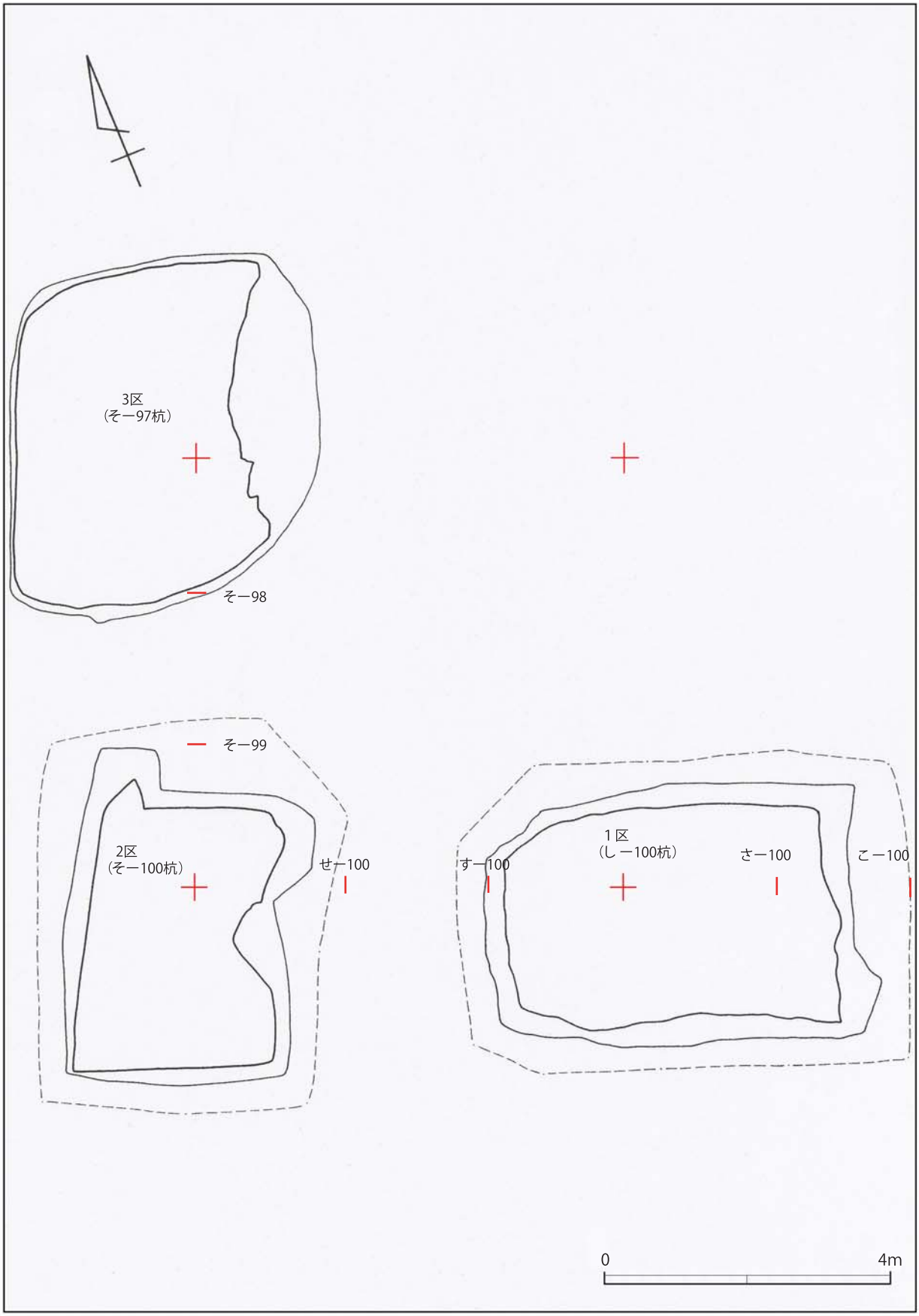
躯体構に挟まれ区画された土手状の包蔵域のうち、断面観察等で残りが良いと判断された三ヶ所について発掘区と定め、それぞれを１～３区と仮称し調査に着手した。

調査はまず各区上面や周囲を覆っている瓦礫や工事に伴うセメントガラなどの除去から始めた。これらは主に今回の工事の過程で被ったものであるが、それによって撹乱の及んでいる可能性があったため、遺物包含層より上位の堆積層は状態を確認しながら除去した。併せて調査区全体を網羅するグリッド設定を行った。

発掘区は遺物包含層を含んだ砂地の堆積層で、乾燥すると削り取られた法面から徐々に崩落し、土器や貝類遺存体が流出する状態であった。調査を進めるにあたっては、遺物や層序


(世界測地系)
そ － 94 ： x = 25,903.960
y = 18,475.854
え － 100 ： x = 25,885.898
y = 18,493.223
至安謝方面
道路
そ せ す し さ こ け く き か お え
94
95
96
97
98
99
100
そ － 97
そ － 100
し － 100
建築予定建物の範囲
崎樋川貝塚 指定範囲
至泊方面
0
20m

第３図　遺跡の位置



第４図　調査区平面図

の三次元座標を押さえながら取り上げすることも検討したが、工事現場内での移動の際に足場が悪いなどの安全上の問題や躯体に伴う型枠・鉄筋・単管足場などによる遮蔽物が多く測量作業の障害となっていること、さらに期間的な問題もあって、やむなく土層確認と遺物採取に主眼を置いた調査となった。なお、調査期間中、工事ヤードに仮置きされた、包蔵域から採砂された残土からの遺物採取も行った。

各発掘区とも基準点を通る東西ラインに土層確認のための畦（各グリッド北壁面：１区においては、こ・さ・しー100の北壁面、２区では、せ・そー100北壁面、３区は、せ・そ・たー97北壁面）を残して、層位を確認しながら遺物を取り上げて掘り下げを行い、その都度写真撮影を行った。

遺物包含層を掘り切って、畦の土層図を実測図化。その後畦の取り壊しながら遺物取り上げを行った。堆積層を掘り切って完掘とし、調査を終了した。

第Ⅴ章　層序

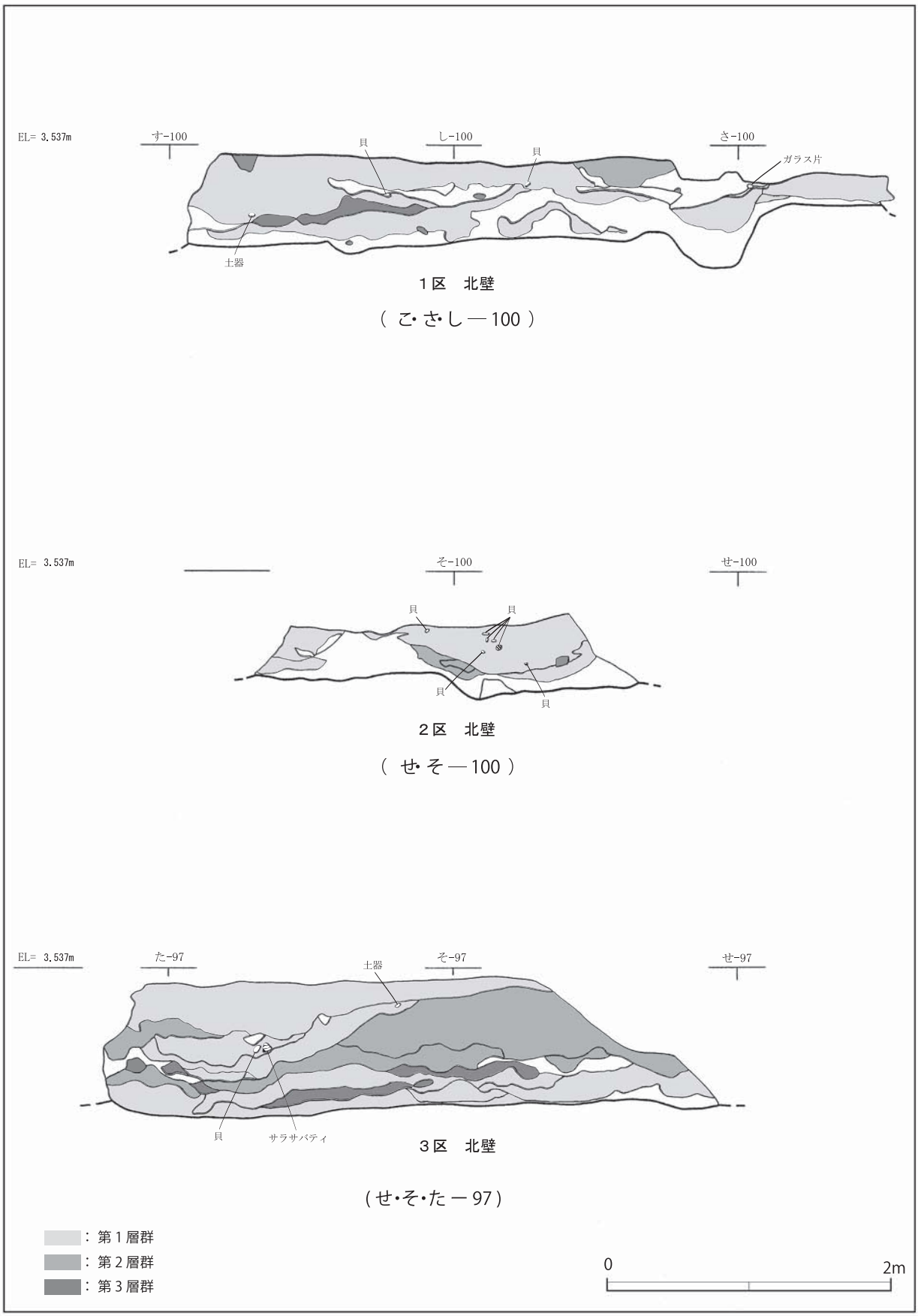
層序は、視覚的に色調の違いや締り具合、包含する遺物の多寡等によって細分した。これらは概ね水平方向へ堆積しているが、仔細な断面観察における層相は各層とも消長や厚薄は一様ではなくやや複雑な堆積状況を示している。ただし、上面からの平面的な堆積状況は必ずしも明瞭では無いため、遺物の取上げに際しては上位からレベリングして扱った。
基本的な層序は概ね次の三種の層群に集約される。

第１層群：１区や２区において顕著にみられるやや淡い褐色を帯びた色調の層群である。一部に白砂塊を含んだ層もある。最も上位の層準とみられるが、３区においては最下位での堆積もみられる。１区さー100グリッドでは薄いが、しー100へかけて白砂の間層を挟みつつ厚みを増す。３区においても同様に西側へかけて厚みを増す。

第２層群：３区において堆積が顕著にみられるやや暗い色調を呈する層群である。同層群の各層で色調に微妙な濃淡の差がある。

第３層群：黒色に近い色調の層群である。層厚は概して薄い。３区において一部に互層をなしている箇所がみられる。２区での堆積はみられない。

以上の基本層序は、１～３区にほぼ共通するとみられるが層厚は必ずしも一定せず、また同一の発掘区においても局部的に序列の逆転する箇所も認められる。この事は堆積層の比較的動き易い砂地であることを考えると、何らかの自然的な条件により層の移動あるいは逆転


EL= 3.537m
す-100
し-100
さ-100
貝
貝
ガラス片
土器
1区　北壁
（ こ・さ・し ― 100 ）
EL= 3.537m
そ-100
せ-100
貝
貝
貝
貝
2区　北壁
（ せ・そ ― 100 ）
EL= 3.537m
た-97
そ-97
せ-97
土器
貝
サラサバティ
3区　北壁
（せ・そ・た ― 97）
：第1層群
：第2層群
：第3層群
0
2m

第5図　土層断面図

した可能性を示していると考えられた。しかし今回のような小規模な、しかもそれぞれの層の広がりの確認できない状況においては、全体像の把握は困難であった。

第Ⅵ章　遺物

これらは人工遺物と自然遺物とに大別されるが、貝塚であることからも貝類遺存体を中心とした自然遺物が圧倒的に多い。以下に記述していく。

第１節　土器

815点が得られた（第１表）。印刻文様を施すものはなく、且つすべて小片で全形の判るものはない。

本遺跡の土器の特徴のひとつとして無文化の強い点が挙げられる。ただし、口縁部に粘土紐を貼付ける標品が検出されている。

他方、器としての造りの粗さが挙げられる。例えばひとつの個体においても曲面の具合が一様でないものが多くさらに器面に指頭圧痕が明瞭に残ることで、その凹凸により器壁の厚みも均等でない。これが小破片であるここと相俟って、容器としてのサイズや傾き具合、つまり土器の基本的な手がかりとなる器種や器形の推定が困難な標品が多い。ただ、極端に内彎する形状のものはなく、概ね甕形を想定した。

残存部における胎土は、泥胎感はあるが焼成は比較的よく、やや硬質のものが多い。器面の状態は最終的にナデによる調整を基本としているが徹底しておらず、先述のとおり多くの標品の器面には指頭圧痕が残る。

ここでは先の理由から、部位毎に分けて標品それぞれの特徴について観察表（第２表）にまとめた。

第１表　土器出土一覧

種類	器種	部位	出土地点																					
			こ-99		さ-99			し-99				せ-96						せ-97				せ-99		
			0/20	20/40	0/20	20/40	40/60	0/20	20/40	40/60	60/80	0/20	20/40	40/60	60/80	80/100	？	0/20	20/40	40/60	60/80	0/20	20/40	40/60
土器	甕形	口縁部	2			3	1					1	2				2	5			1			
		胴部	5	1	4	6	8	1	5	1	3	5	36	12	1	4	11	40	38	20	4	1	24	23
		底部			1	1														1			1	
		不明				5			2			5	9	3		4		8	4	1	1	1	5	4
小　計			7	1	5	15	9	1	7	1	3	11	47	15	1	8	13	53	42	22	6	2	30	27

種類	器種	部位	出土地点																		合計
			せ-100	そ-96					そ-97						た-96				た-97		
			20/40	0/20	20/40	40/60	60/80	80/100	0/20	20/40	40/60	60/80	80/100	？	0/20	20/40	40/60	60/80	20/40	40/60	60/80	
土器	甕形	口縁部	1	2	5				4	1	1	5					1		1		2	40
		胴部	25	23	31	21	6	4	61	37	81	40	22	8	4	8	9	4	3	7	14	661
		底部	1						1	3	1											10
		不明	5	5		2	5	3	11	1	2	10					6		1		1	104
小　計			32	30	36	23	11	7	77	42	85	55	22	8	4	8	16	4	5	7	17	815

第２表　土器観察一覧(1)

（器サイズの単位は㎜）

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 底径 器高 器厚	色調	胎土・焼成	備考	出土地点
第６図１ 図版３の１	甕 口縁部	260 — — 9	外：褐色 内：橙色	微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良好で堅緻である。	器内外とも丁寧なナデを施す。外面横位の擦痕、内面に指圧痕を僅かに残す。頸部から口縁にかけて緩やかにカーブしながら外反する。	せ—96 暗褐色砂層20/40
第６図２ 図版３の２	甕 口縁部	— — — 7	外：褐色 内：淡橙色	微細な石英を僅かに含む。焼成は良好である。	舌状の口唇を内外に挟むかたちで二本の粘土紐を貼付けて、上端を角状に立てる。外面において粘土紐は繋がるようである。器面内外ともナデを施すが、内面のそれはややルーズである。	せ—97 暗褐色砂層0/10
第６図３ 図版３の３	甕 口縁部	— — — 6	外：橙色 内：橙色	微細な白色粒子・石英を僅かに含む。やや泥質。	上記２と同じく二本の粘土紐を貼付ける。内外ともナデを施すが、外器面はやや粗い。	そ—96 暗褐色砂層0/20
第６図４ 図版３の４	甕 口縁部	— — — 7	外：暗褐色 内：暗褐色	胎土は泥質。焼成は良好で比較的堅緻である。	内外面ともナデられ、滑らかであるが、僅かに指圧痕がみられる。	そ—96 暗褐色砂層0/20
第６図５ 図版３の５	甕 口縁部	— — — 7	外：橙褐色 内：橙色	胎土は泥質。焼成は良好で堅緻である。石英を僅かに含んでいる。	内外面ともナデられ、滑らかである。内面に僅かに指圧痕がみられる。	せ—96 暗褐色砂層0/20
第６図６ 図版３の６	甕 口縁部	— — — 7	外：橙色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子・石英を僅かに含む。焼成は良く、堅緻である。	内外面ともナデられ、滑らかであるが、外面に横位の擦痕、内面に指圧痕が僅かにみられる。	そ—96 暗褐色砂層20/40
第６図７ 図版３の７	甕 口縁部	— — — 8	外：明赤褐色 内：橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子・石英を僅かに含む。焼成は良く、堅緻である。白色粒子が極く僅かに含まれる。	内外面ともナデられるが、ともに横位の擦痕を残す。	そ—96 暗褐色砂層20/40
第６図８ 図版３の８	甕 口縁部	— — — 6	外：赤褐色 内：橙褐色	胎土は泥質。微細な石英が僅かに含まれる。	内外面ともナデられるが、横位の擦痕および指圧痕を残す。	そ—97 暗褐色砂層20/40
第６図９ 図版３の９	甕 口縁部	— — — 6	外：橙褐色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な石英が僅かに含まれる。焼成は比較的良い。	内外面ともナデられるが、横位の擦痕および指圧痕を残す。また内面には成形時の輪積みの痕がみられる。	そ—96 暗褐色砂層20/40

第２表　土器観察一覧(2)

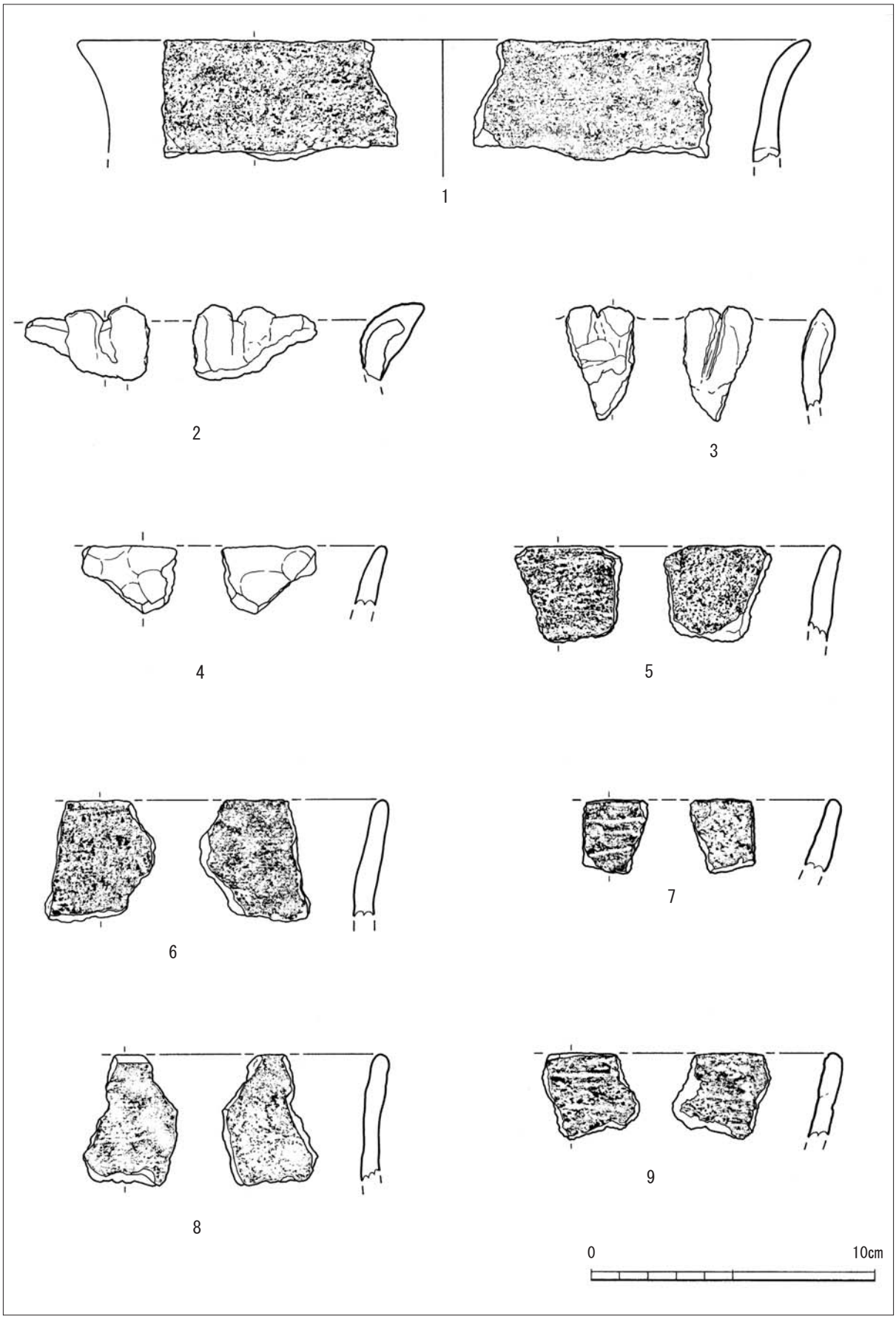
（器サイズの単位は㎜）

挿図番号 図版番号	器種 部位	口径 底径 器高 器厚	色調	胎土・焼成	備考	出土地点
第７図１ 図版４の１	甕 口縁部	― ― ― 8	外：橙褐色 内：橙褐色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成は良い。	器内外ともナデられるが、内面には指圧痕を残す。	そ―96 暗褐色砂層20/40
第７図２ 図版４の２	甕 口縁部	― ― ― 8	外：淡橙色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子を極く僅かに含む。	器内外面ともナデられるが、外面には横位の擦痕、内面には指圧痕が残る。	そ―97 暗褐色砂層40/60
第７図３ 図版４の３	甕 口縁部	― ― ― 5	外：淡褐色内：淡褐色	胎土は泥質。微細な白色粒子・石英を僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられ、滑らかである。	そ―97 暗褐色砂層60/80
第７図４ 図版４の４	甕 口縁部	― ― ― 7	外：橙色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な橙色粒子および白色粒子を僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられ、特に内面は滑らかであるが、口唇内面上端に粘土の積痕がみられる。	そ―96 暗褐色砂層0/20
第７図５ 図版４の５	甕 口縁部	― ― ― 5	外：橙色 内：橙色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられる。	そ―96 暗褐色砂層20/40
第７図６ 図版４の６	甕 口縁部	― ― ― 8	外：淡褐色 内：暗橙色	胎土は泥質。微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良好で堅緻である。	器内外面ともナデられるが指圧痕が残る。内面には成形時の粘土の積み痕が数段みられる。	そ―97 暗褐色砂層60/80
第７図７ 図版４の７	甕 口縁部	― ― ― 7	外：淡橙色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子を極く僅かに含む。焼成は良く、やや堅緻である。	内外面ともナデられるが、ともに指圧痕を残す。	そ―97 暗褐色砂層0/20
第７図８ 図版４の８	甕 口縁部	― ― ― 6	外：淡黄褐色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な白色粒子および赤色粒子が僅かに含まれる。焼成は良くやや堅緻である。	内外面ともナデられるが指圧痕を残す。	そ―97 暗褐色砂層0/20
第７図９ 図版４の９	甕 口縁部	182 ― ― 6	外：黒褐色 内：淡褐色	胎土は泥質。微細な橙色粒子石英が僅かに含まれる。焼成は比較的良い。	内外面ともナデられるが、指圧痕を残す。器下半部から上位へ開き、中途で屈折して口縁部へかけて直立する。屈折部分（輪積み箇所）は強調される。	た―97 暗褐色砂層60/80

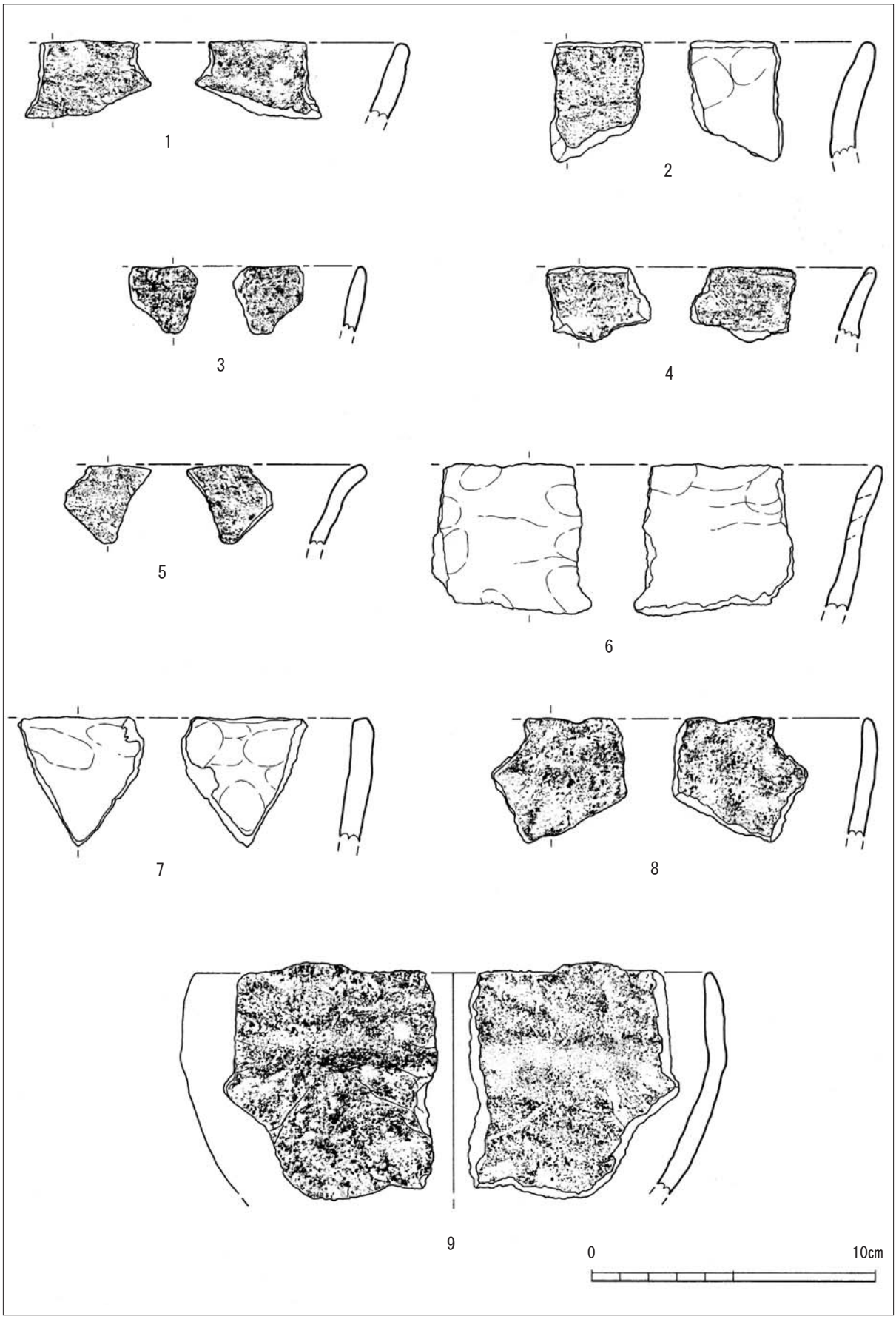
第２表　土器観察一覧(3)

（器サイズの単位は㎜）

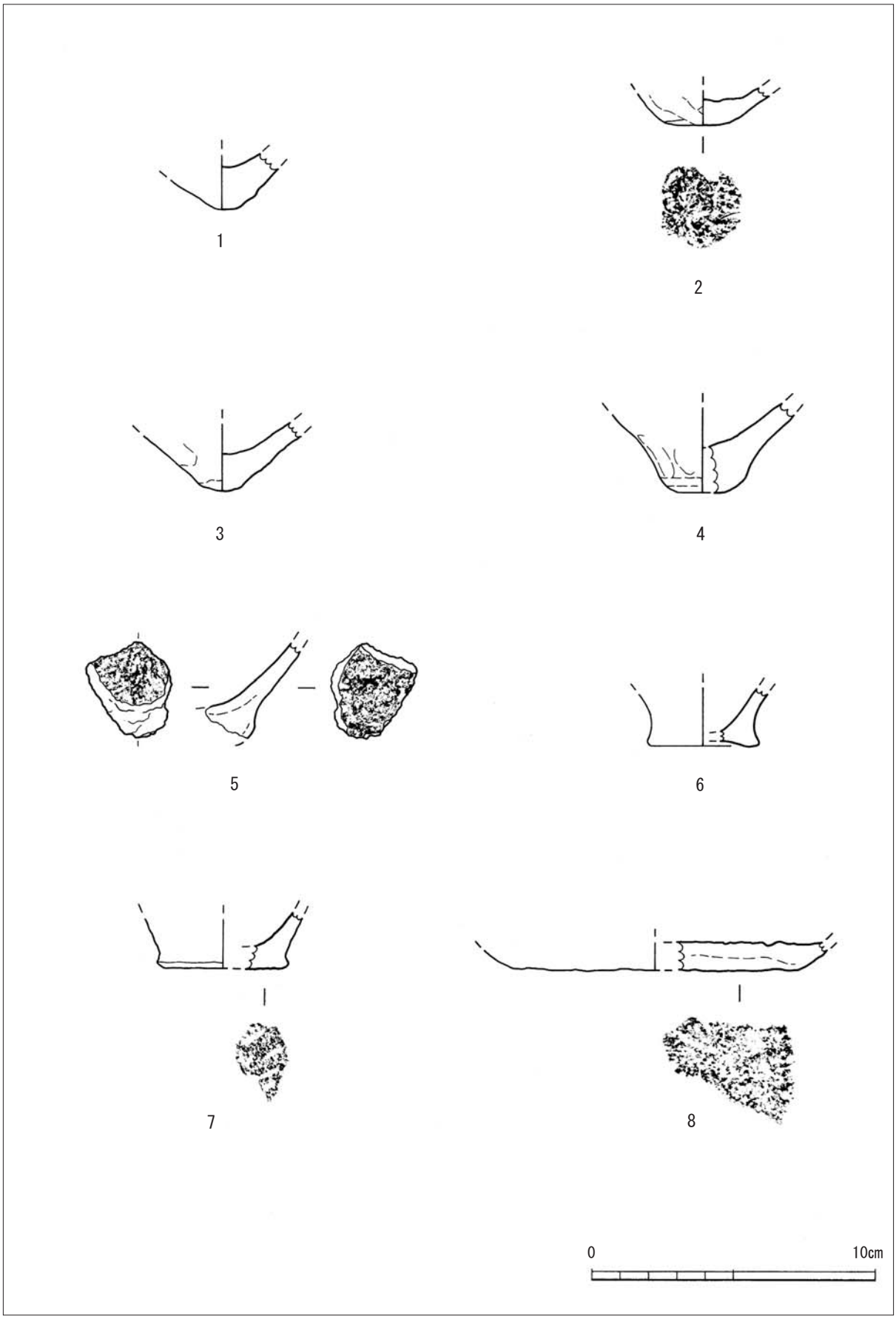
挿図番号 図版番号	部位 形状	口径 底径 器高 底厚	色調	胎土・焼成	備考	出土地点
第８図１ 図版５の１	底部尖底	― ― ― 15	外：灰褐色 内：黒色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成は良く堅緻である。	器内外ともナデが施される。	そ―97 暗褐色砂層40/60
第８図２ 図版５の２	底部尖底	― ― ― 9	外：橙色 内：橙色	胎土は泥質。微細な白色粒子と赤色粒子を僅かに含む。焼成は良い。	器内外面はナデられ、部分的にヘラによる調整痕が残る。内面は粗面となる。	そ―97 暗褐色砂層20/40
第８図３ 図版５の６	底部尖底	― ― ― 13	外：橙褐色 内：黒色	胎土は泥質。微細な白色粒子を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデが施される。先端の周りに僅かなくびれがみられ、乳房状尖底にやや近い。	そ―97 暗褐色砂層20/40
第８図４ 図版５の４	底部 乳房状	― ― ― 16	外：淡橙色 内：黒色	胎土は泥質。微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデられ滑らかである。	そ―97 暗褐色砂層20/40
第８図５ 図版５の５	底部 乳房状	― ― ― ―	外：明褐色 内：明褐色	胎土は泥質。微細な石英を極僅かに含む。焼成はやや良い。	器内外面ともナデられ、特に内面は滑らかに仕上げられる。	そ―96 暗褐色砂層20/40
第８図６ 図版５の６	底部 くびれ平	― 4 ― ―	外：茶褐色 内：茶橙色	胎土は泥質。微細な黒色粒子を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデられるが、全体に摩耗している。上げ底である。	さ―99 暗褐色砂層20/40
第８図７ 図版５の７	底部 くびれ平	― 46 ― 8	外：淡橙色 内：淡橙色	胎土は泥質。微細な石英を極く僅かに含む。焼成は良い。	器内外面ともナデられるが、内面には調整痕が残る。	さ―99 暗褐色砂層0/20
第８図８ 図版５の８	底部 平	― 100 ― 10	外：橙色 内：橙色	胎土は泥質。微細な赤色粒子が僅かに含まれる。焼成は良い。	内外面ともナデられるが若干摩耗を受けている。	そ―97 暗褐色砂層0/20



第６図（図版３）土器 口縁部



第７図（図版４）土器 口縁部



第８図（図版５）土器 底部

口縁部（第６・７図、図版３・４）

40点の出土があった。口縁部に粘土紐を貼付けする標品が２点検出されている。先の理由から傾きの推定の難しいものが多かった。残存部において概ね外傾外反器形が優勢である。第６図１は頸部から大きくカーブしながら緩やかに外反するもので、土器の造りや器面の仕上げも比較的丁寧な点において他と異にする。

他方、第７図９は内傾口縁の資料である。粗造で輪積み部分を隆起させ強調する。他に同図７・８も同種の可能性がある。

胴部は660点の出土があった。器面の内外とも整形が乏しく、成形時の粘土の積み痕が器面に残るものみられる。今回は紙幅の都合で胴部資料の掲載を割愛した。

底部（第８図、図版５）

10点の出土があった。形態の特徴から尖底・乳房状尖底・くびれ平底・平底の四種に大別される。口縁部や胴部資料に比して器面は滑らかで器壁は概して薄手の印象がある。やはり資料は小さい。第８図８は底径の大きな平底であるが、グスク土器の可能性もある。

第２節　貝製品

用途でみると貝錘が最も多い。その他に有孔製品や貝輪、貝匙などがある。
詳細を観察表（第３表）にまとめた。

貝錘（第９～13図、図版６～10）

素材としてはシャコガイ科が圧倒的に多い。ただし、これらの孔の形状は不定形で明確な研磨痕の残るものは認められず、また小振りのものなどもあって、貝錘としての用途にやや疑問の残るものもある。

貝輪（第14図１・２、図版11の１・２）

第14図１は貝輪の半欠品である。同図２は未成品であろうか。

有孔製品（第14図３、図版11の３）

チョウセンサザエを用いたものである。殻口縁近くに孔を穿つ。

貝匙（第15図、図版12）

ヤコウガイを用いたものである。いずれも未成品とみられる。

第３節　石器

石器は思いのほか少ない。石斧１点のみが検出されている。詳細は観察表（第４表）に示した。

第３表　貝製品観察一覧(1)

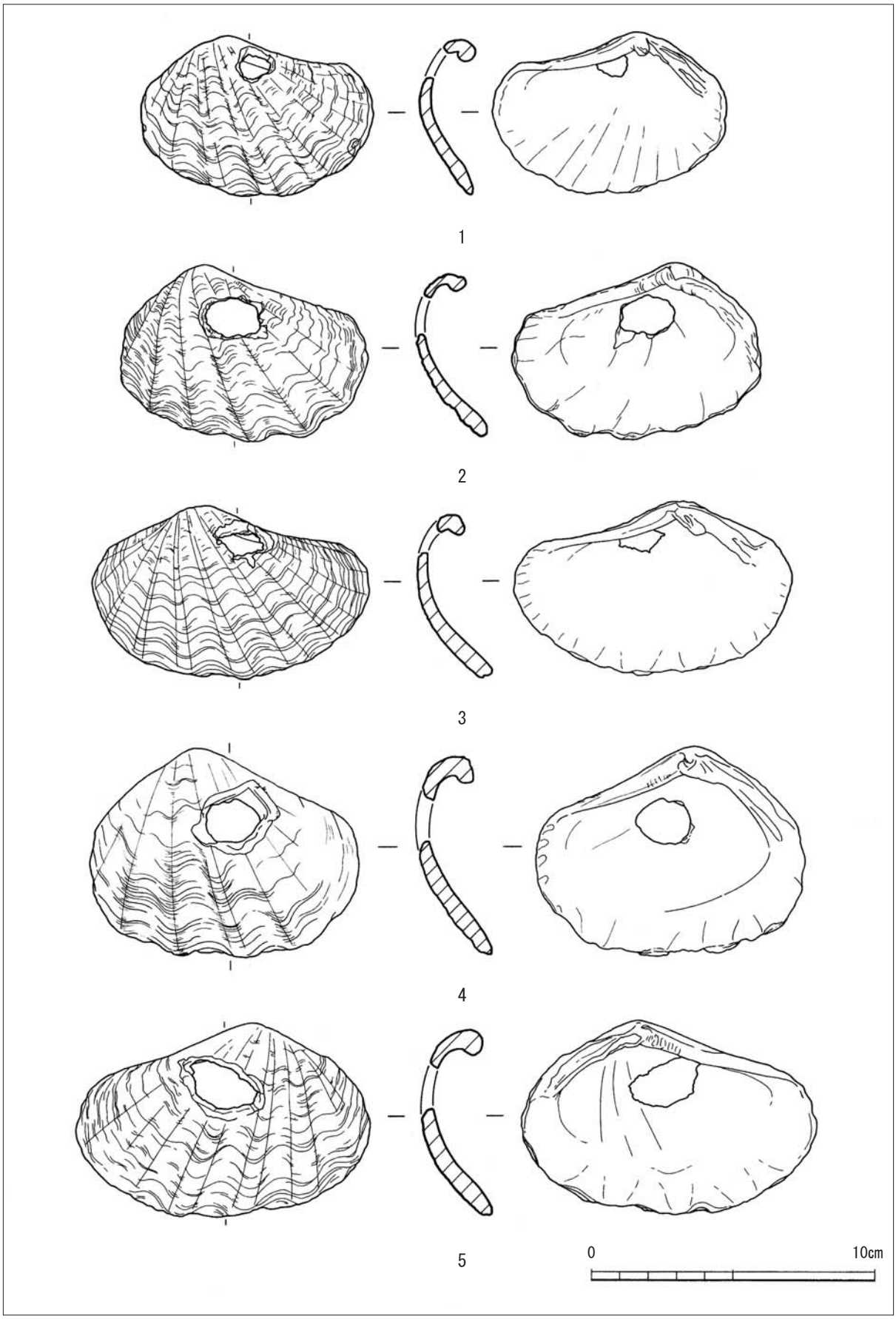
挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (mm)	孔短径 (mm)	殻長 (mm)	現存重量 (g)	観察事項	出土地点
第９図１ 図版６ の１	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	11	10	83	47.4	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せ一97 暗褐色砂層 60/80
第９図２ 図版６ の２	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	19	14	88	52.9	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ一97 暗褐色砂層 0/20
第９図３ 図版６ の３	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	16	9	98	64.2	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体に摩耗がみられる。	そ一97 暗褐色砂層 40/60
第９図４ 図版６ の４	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	19	15	96	86.3	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ一96 暗褐色砂層 20/40
第９図５ 図版６ の５	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコR	21	15	104	84.9	殻頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ一97 暗褐色砂層 60/80
第10図１ 図版７ の１	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	9	8	78	40.7	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ一96 暗褐色砂層 20/40
第10図２ 図版７ の２	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	13	11	70	30.5	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せ一96 暗褐色砂層 0/20
第10図３ 図版７ の３	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコL	23	12	74	22.6	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せ一100 暗褐色砂層 20/40
第10図４ 図版７ の４	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコR	14	11	87	44.3	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ一96 暗褐色砂層 60/80
第10図５ 図版７ の５	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコR	7	5	63	17.5	孔の周りに明確な研磨痕はみられない。孔内縁はシャープで、穴の位置がややずれている。自然破損の可能性もある。	そ一96 暗褐色砂層 60/80
第11図１ 図版８ の１	貝錘	シャコガイ	シラナミR	8	6	52	8.5	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せ一99 暗褐色砂層 40/60
第11図２ 図版８ の２	貝錘	シャコガイ	シラナミR	19	12	60	9.7	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。孔の下半部は二次破損とみられる。	そ一97 暗褐色砂層 40/60

第３表　貝製品観察一覧(2)

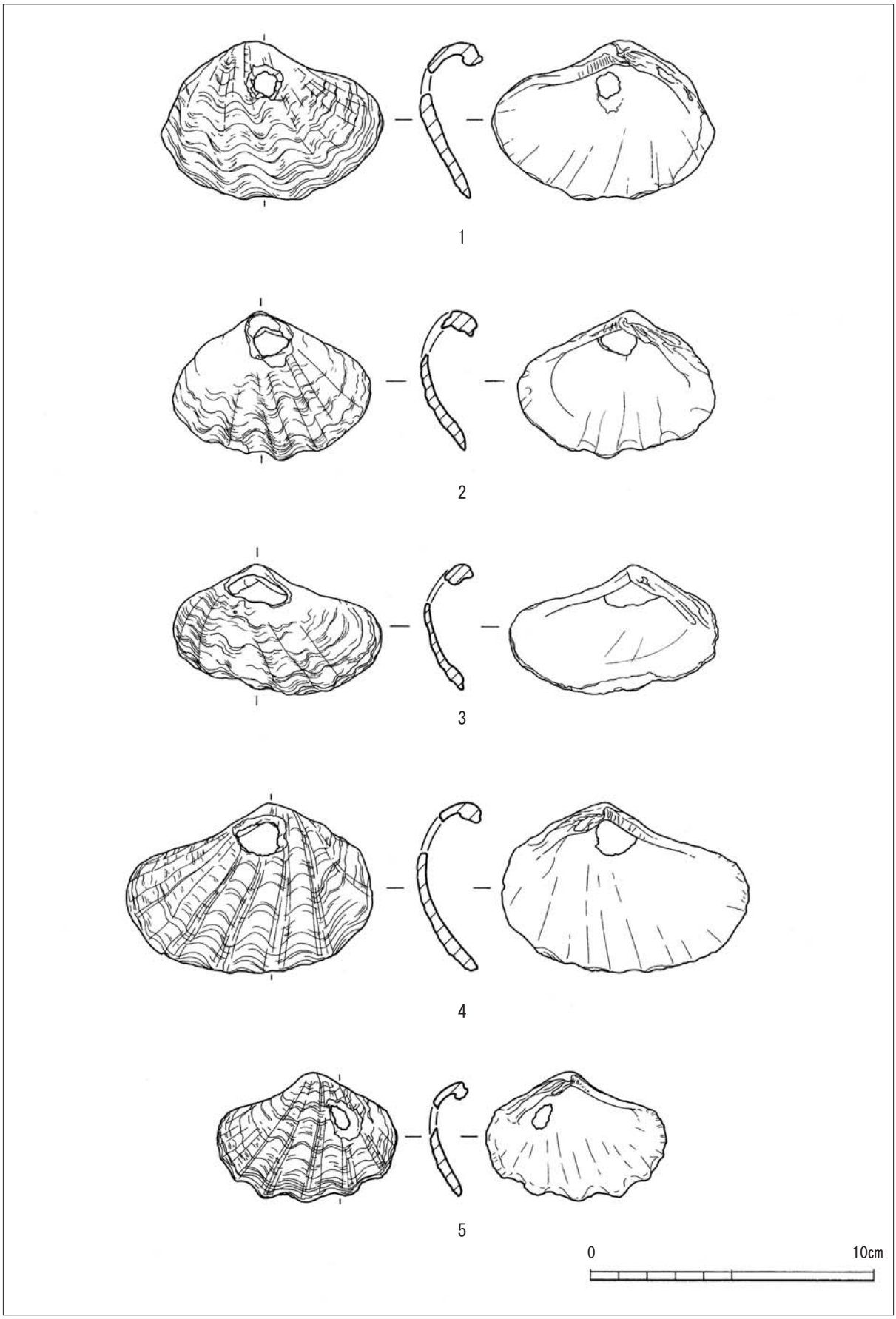
挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (mm)	孔短径 (mm)	殻長 (mm)	現存重量 (g)	観察事項	出土地点
第11図３ 図版８ の３	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコR	8	7	80	36	穀頂部付近に粗孔を穿つ。外面を斜位に研磨によるものとみられる抉りが残る。孔より頂部へかけても浅い研磨がみられる。	そ―97 暗褐色砂層 0/20
第11図４ 図版８ の４	貝錘	シャコガイ	シラナミR	10	6	64	18.3	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ―96 暗褐色砂層 0/20
第11図５ 図版８ の５	貝錘	シャコガイ	ヒメジャコR	15	11	60	16.4	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ―97 暗褐色砂層 40/60
第12図１ 図版９ の１	貝錘	フネガイ	リュウキュウザルボウR	13	10	78	79.1	穀頂部に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体に水摩を受けている。	た―96 暗褐色砂層 40/60
第12図２ 図版９ の２	貝錘	フネガイ	リュウキュウザルボウR	16	14	56	20.7	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体に水摩を受けている。	た―96暗褐色砂層60/80
第12図３ 図版９ の３	貝錘	フネガイ	リュウキュウザルボウL	10	9	56	25	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	せ―96 暗褐色砂層 40/60
第12図４ 図版９ の４	貝錘	フネガイ	リュウキュウザルボウL	8	7	44	11.1	穀頂部付近に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。全体的に水摩を受けている。	そ―97 暗褐色砂層 60/80
第12図５ 図版９ の５	貝錘	ウミギク	メンガイL	28	17	53	9.8	腹面に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ―96 暗褐色砂層 20/40
第12図６ 図版９ の６	貝錘？	ウミギク	メンガイL	7	7	56	20.1	やや腹縁部よりに粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。二次的破損の可能性もある。	さ―99 暗褐色砂層 40/60
第13図１ 図版10 の１	貝錘？	イモガイ	ニシキミナシ	22	22	73	40.1	腹部から螺階部にかけて粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ―96 暗褐色砂層 20/40
第13図２ 図版10 の２	貝錘？	タカラガイ	ヤクシマダカラ	43	33	54	26.6	背部に粗孔を穿つ。自然破損の可能性もある。	せ―96 暗褐色砂層 20/40
第13図３ 図版10 の３	貝錘？	タカラガイ	ヤクシマダカラ	41	35	57	21.5	背部に粗孔を穿つ。自然破損の可能性もある。	せ―96 暗褐色砂層 20/40

第３表　貝製品観察一覧(3)

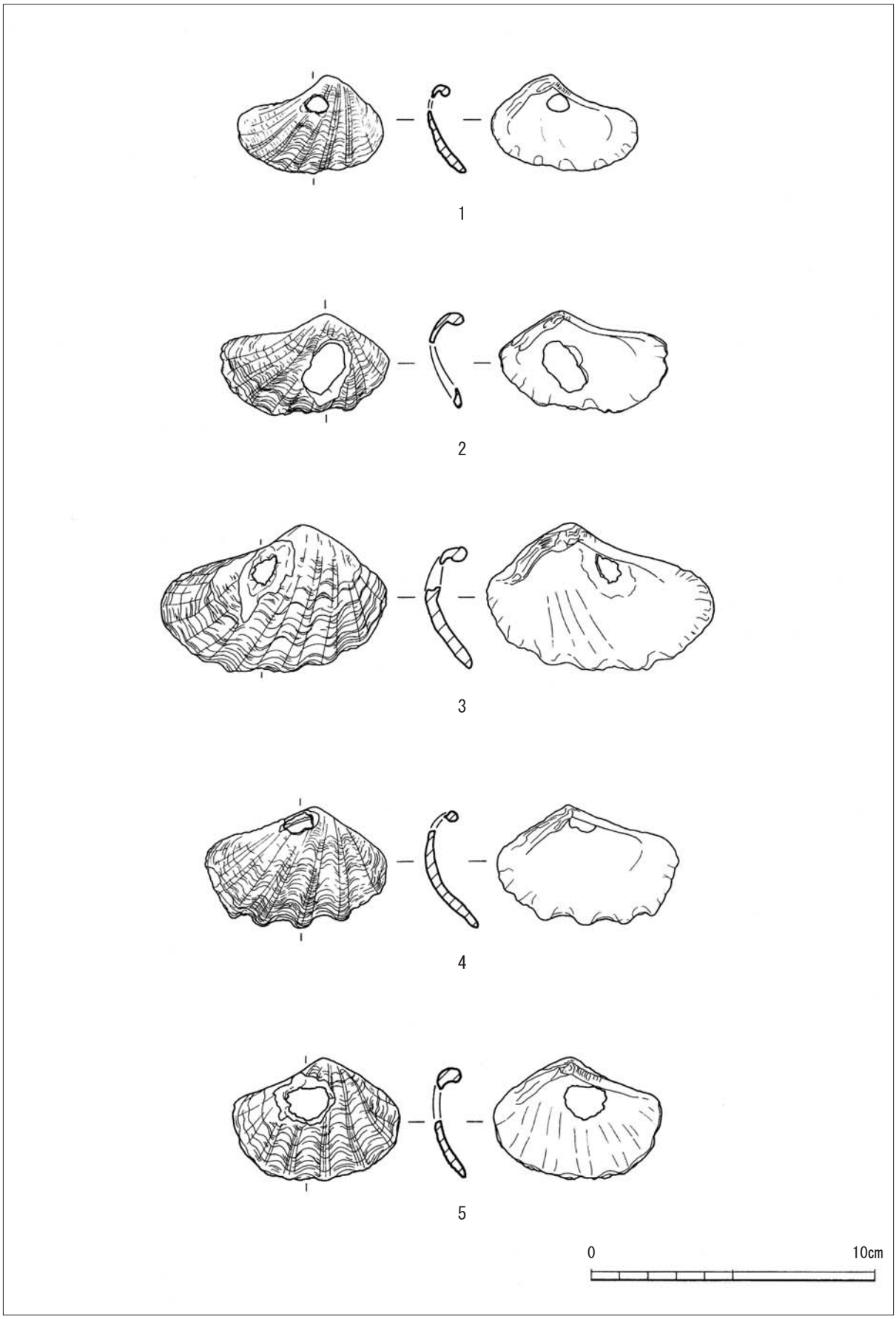
挿図番号 図版番号	用途	科	名称	孔長径 (mm)	孔短径 (mm)	殻長 (mm)	現存 重量 (g)	観察事項	出土地点
第13図４ 図版10 の４	貝錘	タカラガイ	ホシダカラ	57	56	92	118.2	背面側部からの打撃により殻が大きく剥離している。剥離した殻とは接合する。いずれにも明確な加工痕はみられない。	せ―97 暗褐色砂層 40/60
第14図１ 図版11 の１	貝輪	不明	オオツタノハ?				6.4	貝の外周を残し内縁を丁寧に研磨して環状となる。僅かに放射肋を残す。破損品である。	せ―96 暗褐色砂層 20/40
第14図２ 図版11 の２	貝輪	ツタノハ	オオベッコウガサガイ	31	23	47	4.3	殻頂部に粗孔を穿つ。孔の周りに明確な研磨痕はみられない。	そ―96 暗褐色砂層 0/20
第14図３ 図版11 の３	有孔製品	ニシキウズ	サラサバティ		14		800	螺口近くに孔を有する。一部破損のため形状は不明。他に明確な加工痕はみられない。	そ―97 暗褐色砂層 60/80
第15図１ 図版12 の１	貝匙	リュウテン	ヤコウガイ	長さ 129	幅73		185.7	螺階部を切り取って匙状をなす。破損のため形状・サイズは不明。外縁の一部には僅かに研磨痕もみられる。	そ―97 暗褐色砂層 60/80
第15図２ 図版12 の２	貝匙	リュウテン	ヤコウガイ	残存の 長さ97	幅65		60.9	螺階部を切り取って匙状をなす。破損のため形状・サイズは不明。外縁の一部には僅かに研磨痕もみられる。	そ―96 暗褐色砂層 0/20



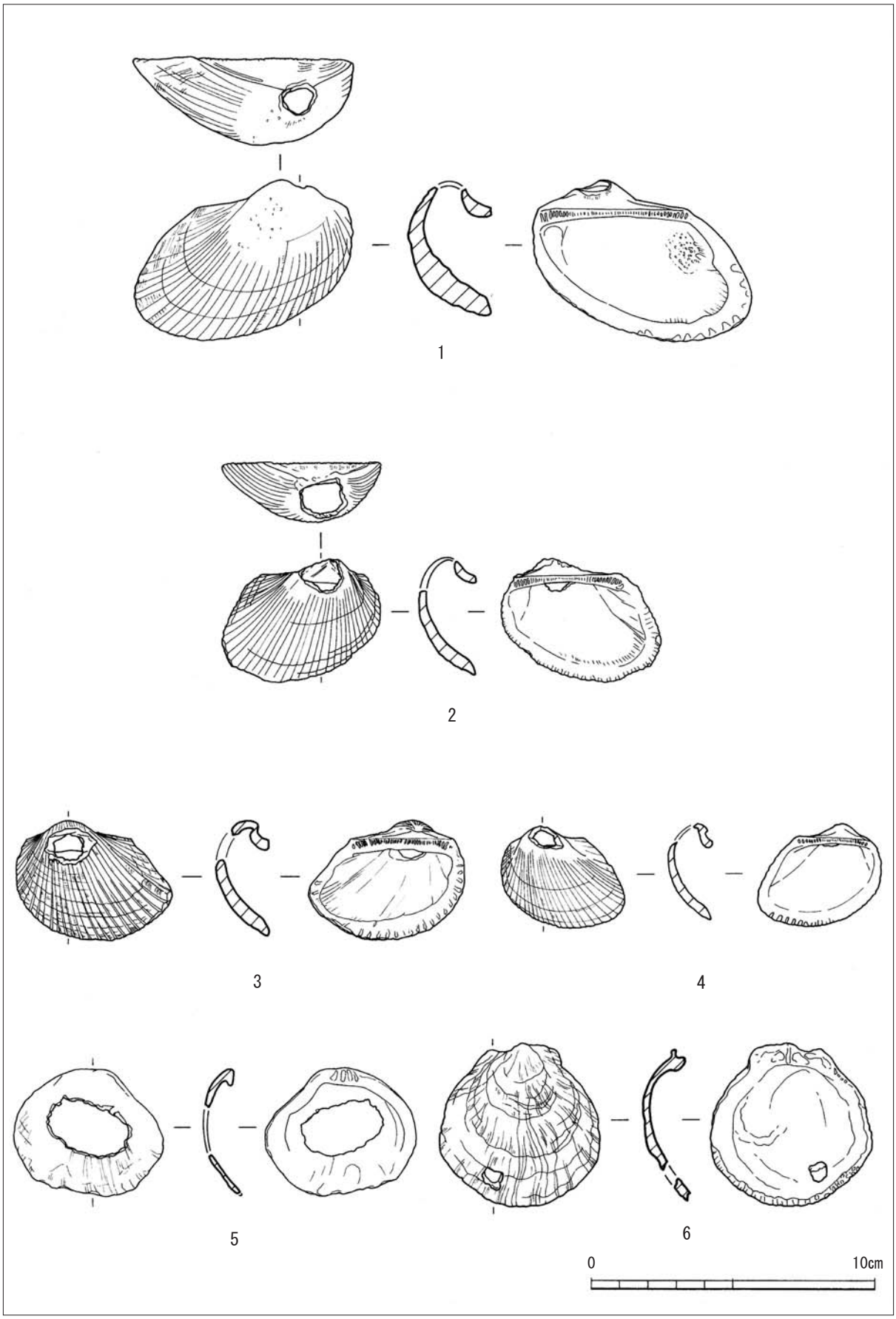
第９図（図版６）貝 錘



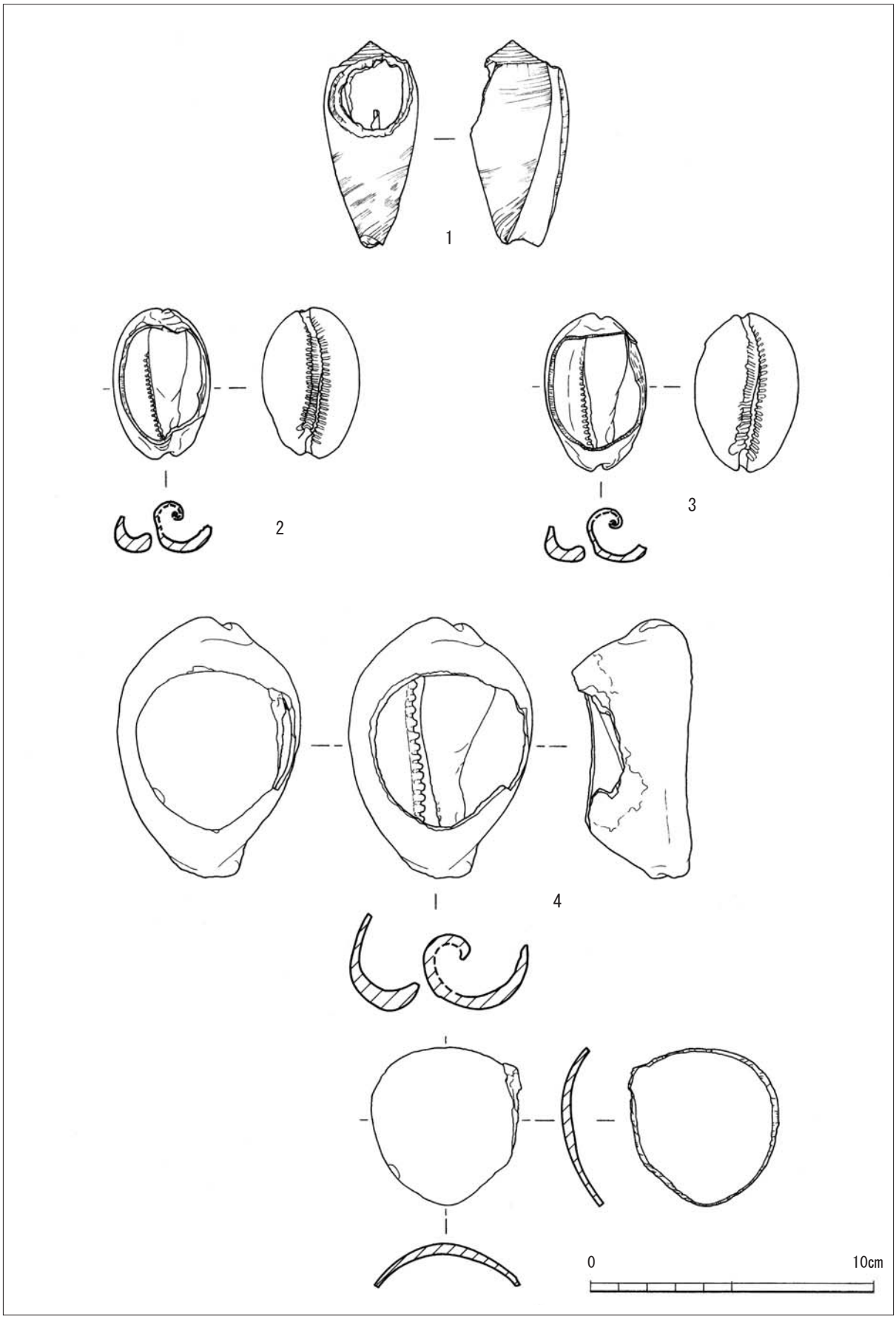
第10図（図版７）貝 錘



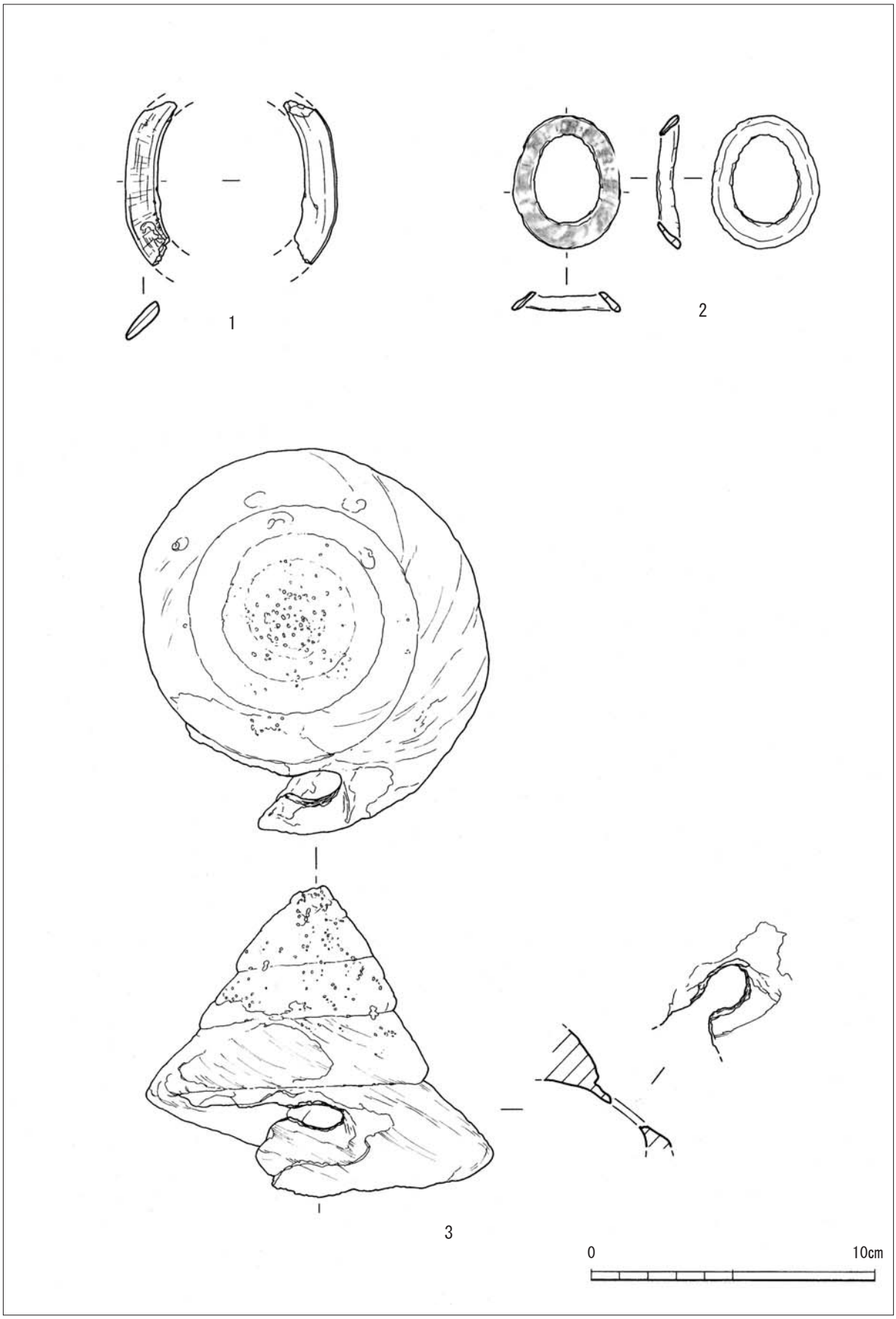
第11図（図版８）貝 錘



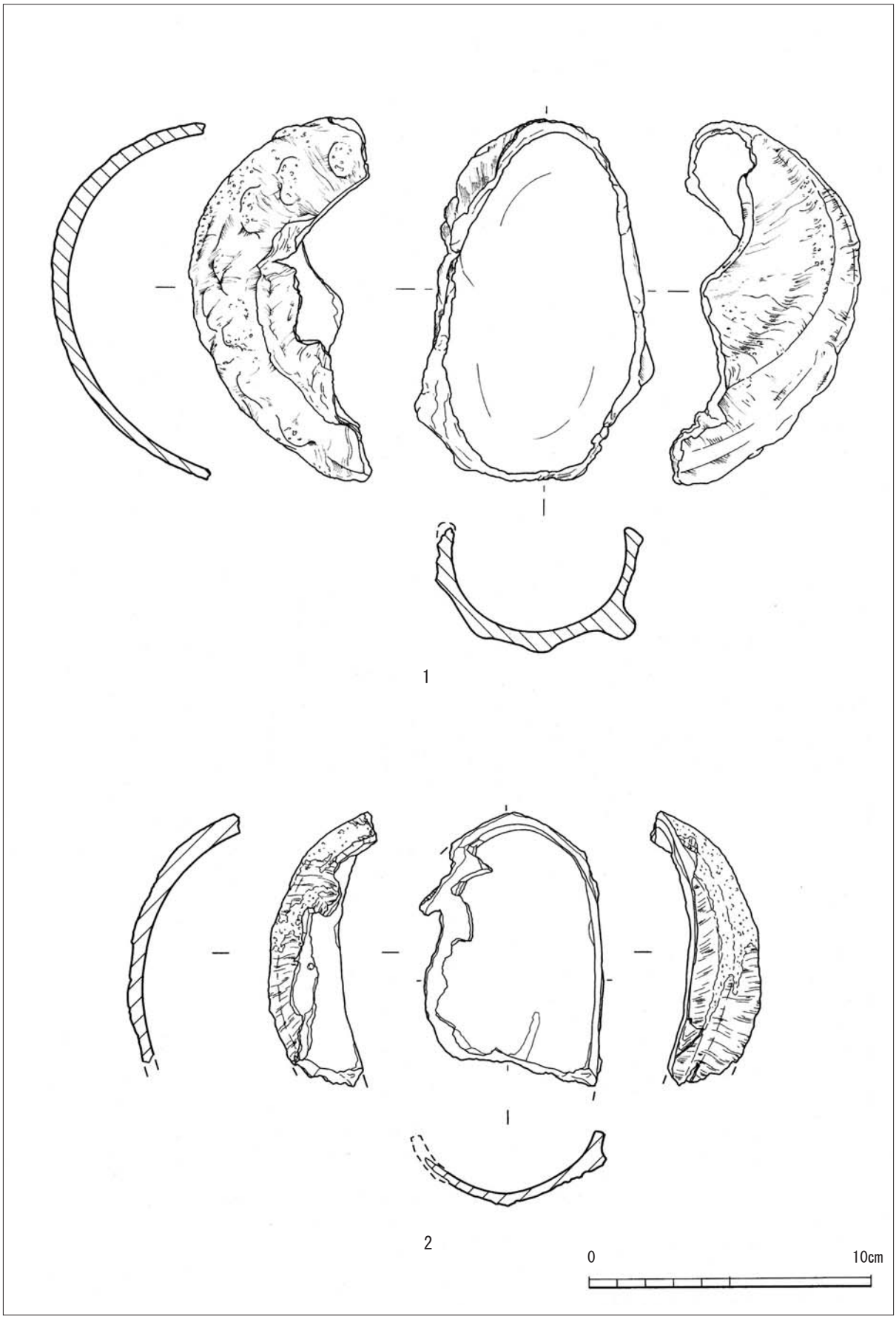
第12図（図版９）貝 錘



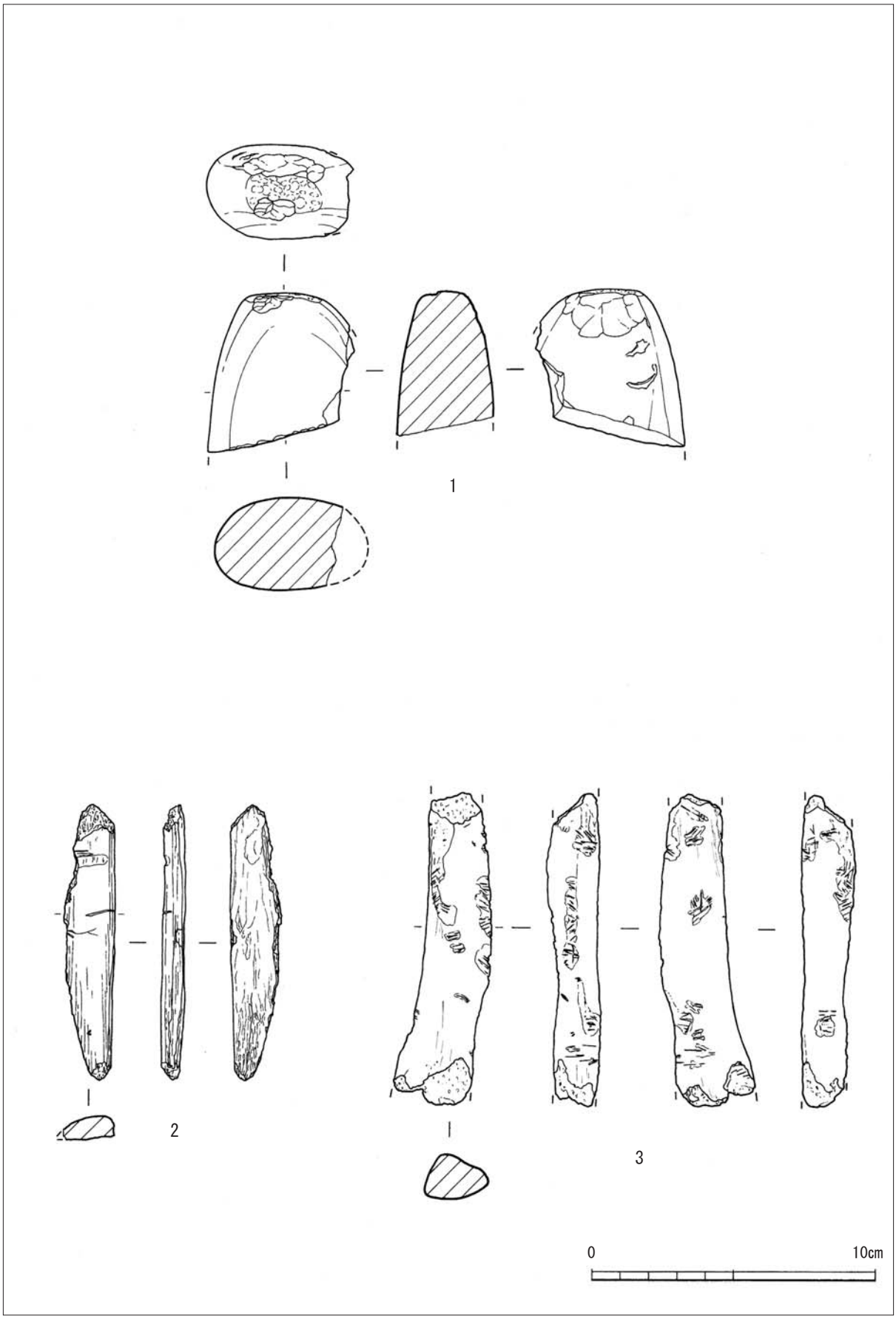
第13図（図版10）貝 錘



第14図（図版11）貝 輪、有孔製品



第15図（図版12）貝 匙



第16図（図版13）石斧、骨製加工品

第４表　石器観察一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	残存状況	計測値　（ mm ・ g ）				特　　徴	出土地点
				残存長	残存幅	最大厚	現存 重量		
第16図１ 図版13 の１	石斧	緑色片岩	部分残存	41	52	34	147.9	基部のみを残す。全面に研磨を施すが基部の際に僅かに剥離がみられる。	せ―96 暗褐色砂層 60/80

第５表　骨製加工品観察一覧

挿図番号 図版番号	器種	石材	残存状況	計測値（mm・g）				特　　徴	出土地点
				残存長	残存幅	最大厚	現存重量		
第16図２ 図版13 の２	不明	不明	半欠	97	18	7	8.5	箆状。横位の線状の刻みが数本確認できる。解体の際の傷か。	そ―97 暗褐色砂層 0/20
第16図３ 図版13 の３	ジュゴン？	不明	半欠	111	23	16	22.2	長軸に対して横位の刻みが多数残る。解体の際の傷か。	せ―96 暗褐色砂層 60/80

石斧（第16図１、図版13の１）
石斧の半欠品である。基部を残す。

第４節　骨製加工品

骨に残る人為的な痕跡と認められるものをここに示した。２点を掲げた（第16図２・３、図版13の２・３）。現在他に１点の同様の資料が確認されている。いずれも食用として解体の際の切痕の可能性がある。

第５節　貝類遺存体

量・種類ともに最も出土量の多かったものである。31科85種が出土している。第６表にまとめた。

第６節　魚類遺存体

９科11種が確認されている。第７表に示した。

第７節 棘皮動物・甲殻類・軟体動物・フジツボ類・ウミガメ類・イノシシ・鳥類遺存体・その他獣骨

それぞれを第８～17表に示した。

第７節　石材

出土量は非常に少なく、石器の素材として用いられるものも殆ど見当たらなかった。第18表にまとめた。

第６表　貝類遺存体出土一覧（1）

二枚貝			シャコガイ科					マルスダレガイ科									ザルガイ科			フネガイ科		シジミガイ科	ウミギク科		ﾆｯｺｳｶﾞｲ科		バカガイ科	ｳｸﾞｲｽｶﾞｲ科	ﾁﾄﾞﾘﾏｽｵｶﾞｲ科	不明	合計
			シラナミ	ヒメジャコ	ヒレジャコ	シャゴウ	不明	ヌノメガイ	アラヌノメガイ	アラスジケマンガイ	ホソスジイナガイ	オオヌノメ	オキシジミ	カミブスマガイ	スダレハマグリ	不明	リュウキュウザルガイ	カワラガイ	不明	リュウキュウウサルボウ	不明	シレナシジミ	メンガイ	不明	リュウキュウシラトリ	サメザラガイ	リュウキュウバカガイ	不明	イソハマグリ		
さ-99	右	個																				1									1
し-99	左	個		3																											3
	右	個	1	1																		1									3
	破	破																						1						5	6
せ-96	左	個	34	60	1	2		1		7							1			1		2		2					3		114
		破	16	3		1		3		1										1		1									26
	右	個	42	48	1	1		5	1	8		1								1		1		3			1		2		115
		破	7	7			1																								15
	破	個																			1									1	2
		破	10	21	4	6	45	4														8		3						6	107
せ-97	左	個	16	18	1	1																1	1						3		41
		破	1	2				1														1									5
	右	個	8	21	1	1				1							1					1							2	2	38
		破		2																											2
	破	破	1	2	9		9	1							1	1														11	35
せ-99	左	個	7	8						1				1															1		18
		破	2	1		1																		1							5
	右	個	5	12						3			1				1					2							3		27
		破	1			1		1																							3
	破	破	3	12	6		12	5		1			1				1													4	45
せ-100	左	個	11	3		1	1			1												2	1								20
		破																				1									1
	右	個	8	3						1	1									1											14
	破	破	3	2		1	20	2															2			1				8	39
そ-96	左	個	43	47	3	5	1	2		3							1			2		5		4					1		117
		破	10	7		1		1														1		2						1	23
	右	個	43	54	4	1		4		4	1						1		1			8		1					1	1	124
		破	3	11		2		1																							17
	破	個																										1		3	4
		破	7	7	2		32	2	2	1	1						1							3				1		16	75
そ-97	左	個	71	68	6	8	1	9		5							1			1		7		5					1		183
		破	6	7		1	4	1												1		1		2							23
	右	個	81	78	5	2	1	2		5								1		4		6		6				1	3		195
		破	7	3			2																							1	13
	破	個					2																							1	3
		破	6	16	4	13	58	3								1			1	1		6		1				4		11	125
た-96	左	個	12	7						1												1									21
		破	4	4	1	1																									10
	右	個	7	7		2		1																							17
		破	1	1																											2
	破	破	2	3	1	1	19	3									1					2			1					3	36
三区周辺	左	個	1	4	2																										7
		破	1																												1
	右	個	3	2																		1									6
		破		1																											1
	破	個																												1	1
		破					1	1														1									3
合計			484	556	51	53	209	53	3	43	3	1	2	1	1	2	9	1	2	13	1	61	4	34	1	1	1	7	20	75	1692

第６表　貝類遺存体出土一覧（2）

巻貝		リュウテン科							ニシキウズ科					オニノツノガイ科			イモガイ科															ソデガイ科									アッキガイ科					
		ヤコウガイ	カンギク	チョウセンサザエ	ヤコウガイのフタ	チョウセンサザエフタ	不明	フタの不明	サラサバテイ	ニシキウズ	ギンダカハマガイ	ベニシリダカ	不明	オニノツノガイ	コオニノツガイ	トウガタカニモリ	アンボンクロザメ	ヤナギシボリイモ	サラサミナシ	イボシマイモ	クロミナシガイ	ゴマフイモ	イボカバイモ	マダライモ	コモンイモ	ニシキミナシ	ミカドミナシ	イタチイモ	オトメイモ	カバミナシ	不明	マダキガイ	ラクダガイ	サソリガイ	クモガイ	マイノソデ	スイジガイ	ゴホウラ	オハグロガイ	不明	ガンゼキボラ	ツノレイシ	ツノテツレイシ	シラクモガイ	アカイガレイシ	不明
さ-99	個		1						1									1														2														
	破			1														1													1															
し-99	個								2																							4														
	破	1							2																							1							1							
せ-96	個		1	1	1	10			15				2	14			1	3						1				1			5	95			2				1		3			1		
	破		1	1	1	1			22	5			7	6			5	35			2			2				1			48	2			1					22		2				
せ-97	個	1	1	1	1	4			13	1	1			7			1														1	17			4					1	2	2		1		
	破						1		9					3				13						1					1	1	16	4					1			12						
せ-99	個		1		1	5			4					2																		21								1		1			2	
	破			2	1					3							2														8	2								10	1					
せ-100	個					10			3					5				2					1	1								7									1	2				
	破			1					6	1				1				10	2					1							5	2								4						
そ-96	個	2	5	7		12	1		51	3			6	12	1		3	9	1	1			2	4							16	53	1		1	1					9	4	1	4		2
	破	2					1		12	2			15	3			4	30			2	1		1							26	4	4	3						12	1	1				4
そ-97	個	1	2	4	2	9			66	4				21			4	11		1	1			1	1		2				3	106			10					2	11		3	1		
	破	2		1	1		1		41	6				2			5	47	1					1		1		2	1	1	6	3			22		3			25	1	4				
た-96	個		1	2	1	1		1	5			1		4		1				1												16										2		1		
	破		1						2	1			3	1			2	5													8	4			2					2	1	1				1
３区周辺	個								7					1				2														2									1					
	破								1																															2						
表採	個																																													
	破																2																					1								
合　計		9	14	21	9	52	4	1	262	26	1	1	33	82	1	1	29	169	4	3	5	1	3	13	1	1	2	4	2	2	143	345	5	3	42	1	4	1	1	94	31	19	4	8	2	7

第６表　貝類遺存体出土一覧（3）

巻貝		オニコブシ科			イトマキボラ科				タカラガイ科								ヤマタニシ科	フジツガイ科			タマキビガイ科	タマガイ科	ナンバンマイマイ科		アマオブネ科			オナジマイマイ科			オキニシ科			カタベガイ科	ウミニナ科			マクラガイ科	ツタノハ科	不明	合計
		コオニコブシ	オニコブシ	不明	リュウキュウツノマタ	イトマキボラ	ツノマタモドキ	不明	アミメダカラ	ホシダカラ	ヤマジマダカラ	ホソヤクシマダカラ	ホソスジダカラ	ホシキムタ	不明幼貝	不明	オキナワヤマタニシ	ミツカドボラ	サツマボラ	ホラガイ	コンペイトウガイ	ヘソアキトミガイ	オキナワヤマタカマイマイ	不明	アマオブネ	イシダタミアマオブネ	不明	パンダナマイマイ	イシダタミアマオブネ	不明	オキニシ	シロミオキニシ	シロナルトボラ	リョウキュウカタベ	センニンガイ	マドモチウミニナ	不明	サツマビナ	不明		
さ-99	個																							1											1						7
	破																																								3
し-99	個																																							1	7
	破																																							6	11
せ-96	個	2				1								1	1		3		2			1						1				1		1		1	1			7	180
	破	7														4	3						1									1								46	226
せ-97	個		1					1									1																1							2	65
	破		1	2								1				1																								26	93
せ-99	個	4															1														2							1		14	60
	破															1				1											1									79	111
せ-100	個				1																																			4	37
	破	1						2				1				1																								36	74
そ-96	個	2	4		2	1											3														1									17	242
	破			2					2	2			1																											105	240
そ-97	個	7		1		2	1	1		1						1	4	1		1	1					1		1			4									13	306
	破	3		3	1	1				2	2					3	1			2											6									93	294
た-96	個	2																									1				1			1						1	43
	破	1								1																					1								1	35	73
３区周辺	個	1															1								1															1	17
	破																																							6	9
表採	個									1																															1
	破																			1																					4
合　計		30	6	8	4	5	1	4	2	7	2	2	1	1	1	11	17	1	2	5	1	1	1	1	1	1	1	2	0	0	16	2	1	2	1	1	1	1	1	492	2103

第７表　魚類遺存体出土一覧（1）

目		スズキ目																																											合計
科		ハタ科							フエダイ科			タイ科		フエフキダイ科												ベラ科			ブダイ科															
類		不明							フエダイ			クロダイ		ハマフエフキ									不明			不明			アオブダイ						イロブダイ									
層序	部位	主上顎骨			前上顎骨			不明	舌顎骨			歯・顎骨		前上顎骨			歯骨			主鰓蓋骨			口蓋骨			前上顎骨			歯骨			上咽頭骨			前上顎骨			歯骨			上咽頭骨			下咽頭骨	
		左	右	不明	左	右	不明		左	右	不明			左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明		
し - 99	40/60																																												
せ - 96	0/20																															1													1
	20/40														1					1															1							1			4
	40/60														1																														1
	60/80																																												
	80/100																													1															1
せ - 97	0/20														1																													1	2
	40/60																					1										1	1												3
	60/80											1														1																			2
せ - 99	40/60																																											1	1
せ - 100	20/40																																												
そ - 96	0/20																																												
	20/40																																												
	40/60									1							2	1								1																			5
	60/80																																												
	80/100																						1	1																					2
そ - 97	0/20					1																											1												2
	40/60							1																																					1
	60/80	1															1																					1	1						4
	80/100																																												
た - 96	20/40																																												
	40/60		1													1																													2
	60/80																																												
	80/100																																												
三区周辺																																													
合計		1	1			1		1		1		1			3	1	3	1		1		1	1	1		2				1		2	2		1			1	1			1		2	31

第７表　魚類遺存体出土一覧（2）

目		スズキ目																																	合計
科		ブダイ科																																	
類		ナンヨウブダイ									ナガブダイ				コブダイ			ハゲブダイ			不明														
層序	部位	前上顎骨			歯骨			上咽頭骨			上咽頭骨			下咽頭骨	歯骨			上咽頭骨			前上顎骨			歯骨			上咽頭骨			下咽頭骨	方骨			
		左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明		左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明		左	右	不明	
し - 99	40/60																																		
せ - 96	0/20																					1		1											2
	20/40				1			1														1									1	1		5
	40/60																								1										1
	60/80																																		
	80/100																																		
せ - 97	0/20																																		
	40/60																																		
	60/80																																		
せ - 99	40/60		1			1															1				1										4
せ - 100	20/40																				1														1
そ - 96	0/20																																		
	20/40													1								1								2					4
	40/60								1					1							1				1				1						5
	60/80															1																			1
	80/100																																		
そ - 97	0/20									1	1																								2
	40/60																		1																1
	60/80																					1													1
	80/100													1																					1
た - 96	20/40																																		
	40/60																																		
	60/80																																		
	80/100																					1													1
三区周辺																																			
合計			1		1	1		1	1	1	1			3		1			1		3	5		1	3				1	2	1	1		29

第７表　魚類遺存体出土一覧（3）

目		フグ目										不明																									合計
科		モンガラカワハギ							ハリセンボン			不明																									
類		不明							不明			不明																									
層序	部位	上咽頭骨			下咽頭骨			背鰭棘	歯・顎骨			主鰓蓋骨			前上顎骨			歯・顎骨	角骨			方骨			舌顎骨			主鰓蓋骨			椎骨	尾椎	臀鰭棘	鰭棘	不明			
		左	右	不明	左	右	不明					左	右	不明	左	右	不明		左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明	左	右	不明					左	右	不明	
し - 99	40/60																																				1	1
せ - 96	0/20																														5			1			4	10
	20/40				1				1			1																			7	1		2			21	34
	40/60																								1						2			2			3	8
	60/80																														1						1	2
	80/100																														2							2
せ - 97	0/20							1																										1			17	19
	40/60																														4			1			35	40
	60/80																																	2			8	10
せ - 99	40/60	1	1												1																1						4	8
せ - 100	20/40							1																													1	2
そ - 96	0/20																	1			1										4						2	8
	20/40								1																						3		1	1			4	10
	40/60					1															1										7	1		2			8	20
	60/80											1		1																	7						8	17
	80/100																																				2	2
そ - 97	0/20																														2				1		7	10
	40/60																																				9	9
	60/80								2												3			2						2	13	1	1	3			34	61
	80/100																																					
た - 96	20/40								1																													1
	40/60																														1						1	2
	60/80																																				14	14
	80/100																																				4	4
三区周辺																																					2	2
合計		1	1		1	1		2	5			2		1	1			1			5			2	1					2	59	3	2	15	1		190	296

第８表　棘皮動物（ウニ類）出土一覧

種	層序／部位	せ - 96		せ - 97	せ - 99	そ - 96				そ - 97		た - 96	三区周辺	合計
		0/20	20/40	40/60	40/60	0/20	40/60	60/80	80/100	40/60	60/80	20/40		
パイプウニ	棘		1			2	1	2	2			1		9
種不明	棘	1	3	31	1						5		1	42
	甲		2				1	1		1	1		1	7
合計		1	6	31	1	2	2	3	2	1	6	1	2	58

第９表　甲殻類（カニ類）出土一覧

種	層序／部位	せ - 96	せ - 97	せ - 99	そ - 96		そ - 97	合計
		20/40	0/20	40/60	20/40	40/60	60/80	
甲殻類（カニ）	はさみ（可動・不動指不明）	2	3	3	1	2	3	14

第10表　軟体動物（頭足類・イカ）出土一覧

種	層序／部位	せ - 100
		20/40
コウイカ	甲端	1

第11表　フジツボ類出土一覧

種	層序／部位	せ - 96	そ - 96	そ - 97	合計
		20/40	40/60	40/60	
種不明	破片	1	1	1	3

第12表　ウミガメ類出土一覧

層序／部位	せ - 96				せ - 97			せ - 99		そ - 96				そ - 97				た - 96	合計
	0/20	20/40	40/60	80/100	0/20	40/60	60/80	20/40	40/60	0/20	20/40	40/60	80/100	0/20	20/40	40/60	80/100	20/40	
頭骨			1																1
尺骨			2														1		3
指骨		1	1													1			3
不明	2	8	6	1	8	3	6	2	9	2	5	3	1 ①	7	5	11 ①	4	1	84 ②
合計	2	9	10	1	8	3	6	2	9	2	5	3	1 ①	7	5	12 ①	5	1	91 ②

○は解体痕

第13表　イノシシ出土一覧

部位＼層序	せ－96			せ－97	せ－99		せ－100	そ－96			そ－97			た－96	三区周辺	合計
	0/20	20/40	40/60	0/20	0/20	40/60	20/40	0/20	20/40	60/80	40/60	60/80	80/100	60/80		
後頭骨		2														2
上顎骨												1				1
下顎骨	1	1		1		1	1					1				6
肋骨		1														1
大腿骨		(1)														(1)
軸椎（第２頸椎）														(1)		(1)
腰椎	1															1
上腕骨		(1)							(1)							(2)
尺骨													1			1
橈骨	1									(1)	1					2 (1)
中手骨		(1)														(1)
寛骨		(1)														(1)
脛骨			1		1			1	1				1		(1)	5 (1)
指骨										1						1
合計	3	4 (4)	1	1	1	1	1	1	1 (1)	1 (1)	1	2	2	(1)	(1)	20 (8)

（　）は焼骨

第14表　イノシシ歯出土一覧

部位＼層序		上顎歯						下顎歯											上下不明		合計
		左						左						右				左右不明	左右不明		
		dm3	dm4	P4	M1	M2	M3	P2	P3	P4	M1	M2	M3	C	P2	M2	M3	M3	C	不明	
せ－96	0/20										1	1									2
	20/40							1	1	1	1								1		5
せ－97	60/80																			1	1
せ－99	40/60												1								1
そ－96	40/60																			2	2
	60/80																			(1)	(1)
そ－97	0/20																		1		1
	60/80	1	1	〈1〉	1	1	〈1〉							1	1	1	1	1			9 〈2〉
合計		1	1	〈1〉	1	1	〈1〉	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	3 (1)	21 〈2〉 (1)

〈　〉は未萌出、（　）は焼骨

第15表　鳥類出土一覧

種＼層序	せ－96	そ－97	合計
	40/60	60/80	
種不明	1	1	2

第16表　獣骨（種不明）出土一覧

層序 / 部位	せ - 96		せ - 97		そ - 96				そ - 97			た - 96	合計
	20/40	40/60	0/20	60/80	0/20	20/40	40/60	60/80	0/20	60/80	80/100	40/60	
下頭骨			1										1
肋骨	1		1				1	1			1	1	6
不明	1（4）	1	1	1	（1）	4		（1）	2	5			15（6）
合計	2（4）	1	3	1	（1）	4	1	1（1）	2	5	1	1	22（6）

第17表　骨（不明）出土一覧

層序 / 種	し - 99	せ - 96			せ - 97		せ - 99	せ - 100	そ - 96			そ - 97		た - 96		合計
	60/80	20/40	40/60	60/80	0/20	40/60	40/60	20/40	0/20	20/40	40/60	0/20	60/80	40/60	40/60	
不明	1	11	1	3	2	2	9	3	10	3	6（1）①	2	10	1	1	65（1）①

（　）は焼骨、○は解体痕

第18表　石材出土一覧

出土地＼種		石灰岩片・サンゴ礫	千枚岩等		チャート	軽石	その他	合　計
			千枚岩等	石材				
し-９９	40/60	3						3
せ-９６	20/40	12	1				1	14
せ-９６	40/60	5				3		8
せ-９６	60/80	1		1				2
せ-９６	80/100	1						1
せ-９７	0/20	5						5
せ-９７	40/60	8				1		9
せ-９７	60/80	1				5		6
せ-９９	20/40							0
せ-９９	40/60	15	3		1	5		24
せ-１００	20/40	6	3			2		11
そ-９６	0/20	7						7
そ-９６	40/60	8	3					11
そ-９６	60/80	11	1		1			13
そ-９７	0/20	5	1	2				8
そ-９７	40/60	2						2
そ-９７	60/80	27	1			5		33
そ-９７	80/100	1					2	3
た-９６	0/20	1				1		2
た-９６	20/40	3						3
た-９６	40/60	1				1		2
た-９６	60/80	2						2
た-９６	80/100	1						1
３区周辺		1				1		2
表　採		7						7
合　計		134	13	3	2	24	3	179

第Ⅶ章　総括

以上、調査の成果について述べた。ここで今一度、整理してまとめとしたい。

発掘調査の経緯については第Ⅰ章で述べたとおりセレモニーホール建設工事中に発見されたことによる。今後は周知の埋蔵文化財包蔵域の周辺においても注意を喚起する方策が必要となろう。開発調整の事前確認の手続きに課題を残した。

さて、遺跡の立地・範囲について、これまでの調査例から、遺跡は崖中腹から斜面下位、斜部と平地の境辺りまでとみられていたが、今回の発見により西側への広がりが確認された、工事による掘方法面ではさらに北側の現駐車場側へ延びる様子が窺え、範囲はさらに広がる模様である。

ただし、今回調査した場所は海抜が約３ｍあって、当時の海岸まで２～30ｍの距離からすれば思いの外高低差がある。加えて琉球石灰岩の崖側からは今より流水による影響も大きかったであろう。今回の調査で確認された遺物包含層の堆積の在り方は、このような環境にあって砂丘は絶えず動いており、結果遺跡としての痕跡も徐々に広がっていったのではなかろうか。

本稿では、貝類・魚類遺存体などの自然遺物については、十分な集計分類を終えておらず、現段階では十分な考察が果たせないのであるが、現時点において過去の調査との比較した場合、高宮氏による調査で採集された貝の種類とほぼ共通する。詳細については、集計・分析の済んだ段階で稿を改めたい。

土器について、高宮氏による調査では無文のものに混じって口唇部に刻みを持つものが散見されるが今回の調査において口唇部に刻み文様を持つものはなく、より無文化の傾向の強い印象を受ける。前回と同様、粘土紐で突起を附す資料が得られている。破片が小さく全体の構成は不明であるが、他に凸帯資料はなく、おそらく口唇に部分的に附したものだろう。

他方、今回の土器の観察において、特にサブタイプ分類は行わなかったが、大凡の器形器面調整の具合や類推できる器形から次の特徴を有する二種のタイプの存在が注意された。なお、胴部片資料にもいくつかこの二種に類するとみられる資料がある。

１：外反器形。入念なナデ調整が施され、器面や口唇部の作りも端正である。焼成は良好で堅緻。第６図１などに代表される。

２：器体の上位で内傾となる。器面には指頭などによる凹凸があり、作りは雑な印象がある。粘土の継ぎ目に沿って帯状に盛り上がり強調される。焼成は良いが泥質感がやや強い。ここには第７図９が代表される。いわゆる大当原タイプと呼ばれる土器を想起させる。

資料の限られる現時点において言及は出来ないのであるが、本遺跡のより具体的な所属時期を判断する手がかりになるのではないだろうか。

註

註１　高宮廣衛・知念勇・岸本義彦・中村健「読谷村大当原貝塚発掘調査概報」『読谷村立歴史民俗資料館紀要』第17号　1993

図　　版

図版 1　調査地区の状況

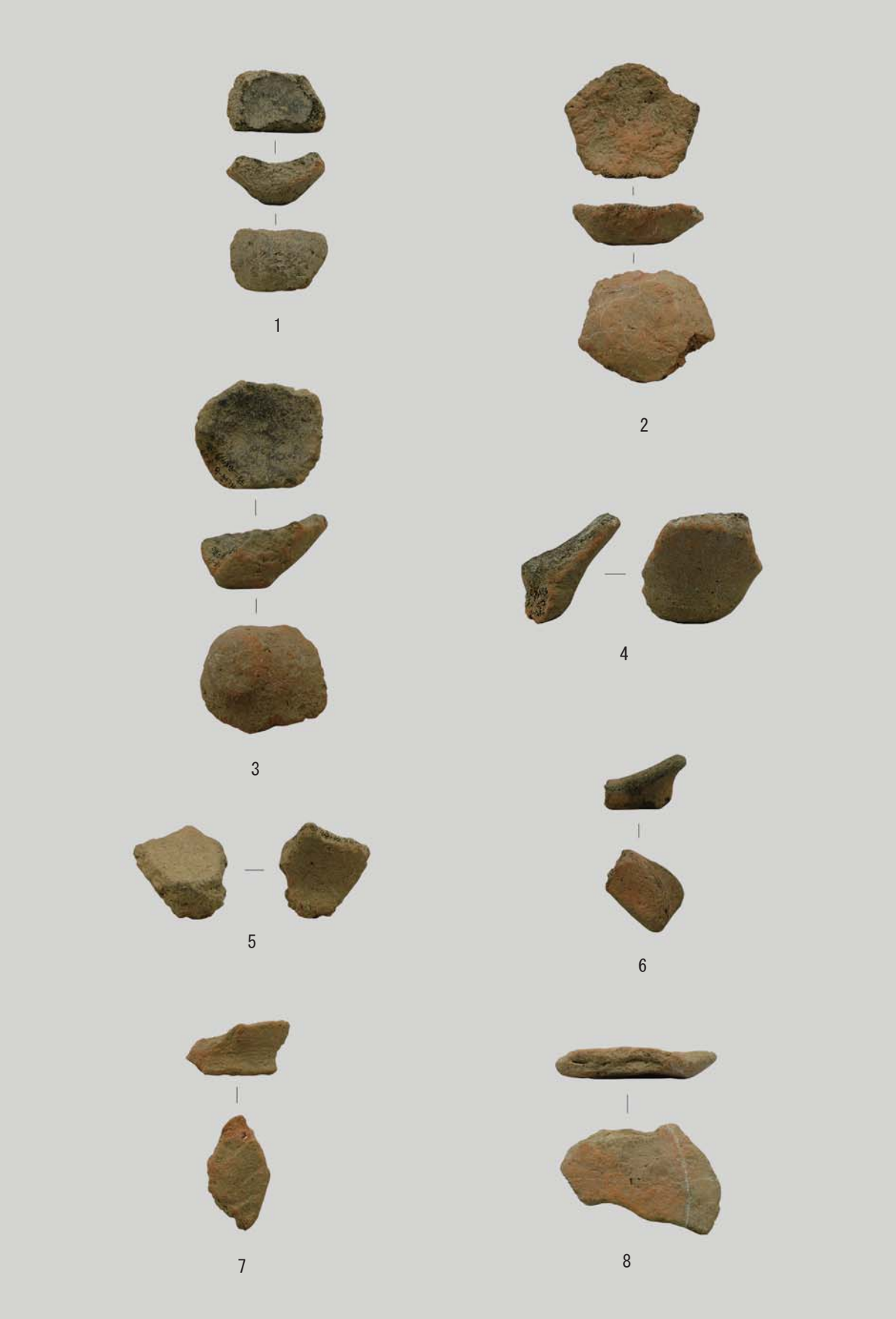
一段目左：調査地区全景（東から）
二段目左：調査地区全景（北西から）
三段目左：調査区（１区）
四段目左：発掘調査前（３区）

一段目右：後方は崎樋川貝塚 A
二段目右：調査前（３区）
三段目右：発掘作業（３区）
四段目右：発掘作業（３区）

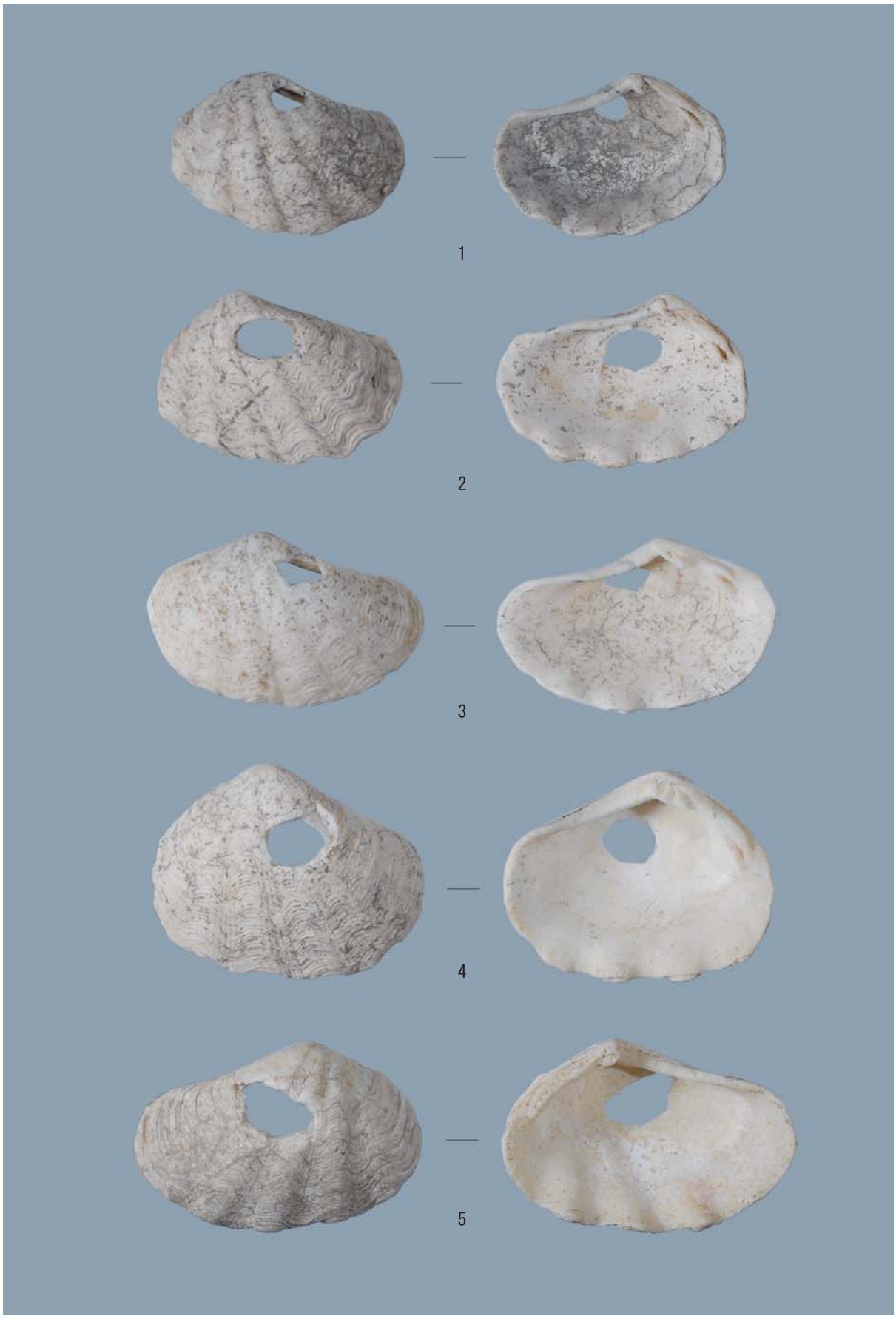
図版２　調査地区の状況
一段目左：作業風景
二段目左：作業風景
三段目左：せ・そ-100完掘（２区）
四段目左：完掘（３区）
一段目右：遺物の出土状況
二段目右：こ・さ・しー100完掘（１区）
三段目右：こ・さ・しー100完掘
四段目右：完掘（１区）

図版 3（第 6 図）土器　口縁部

図版４（第７図）土器　口縁部

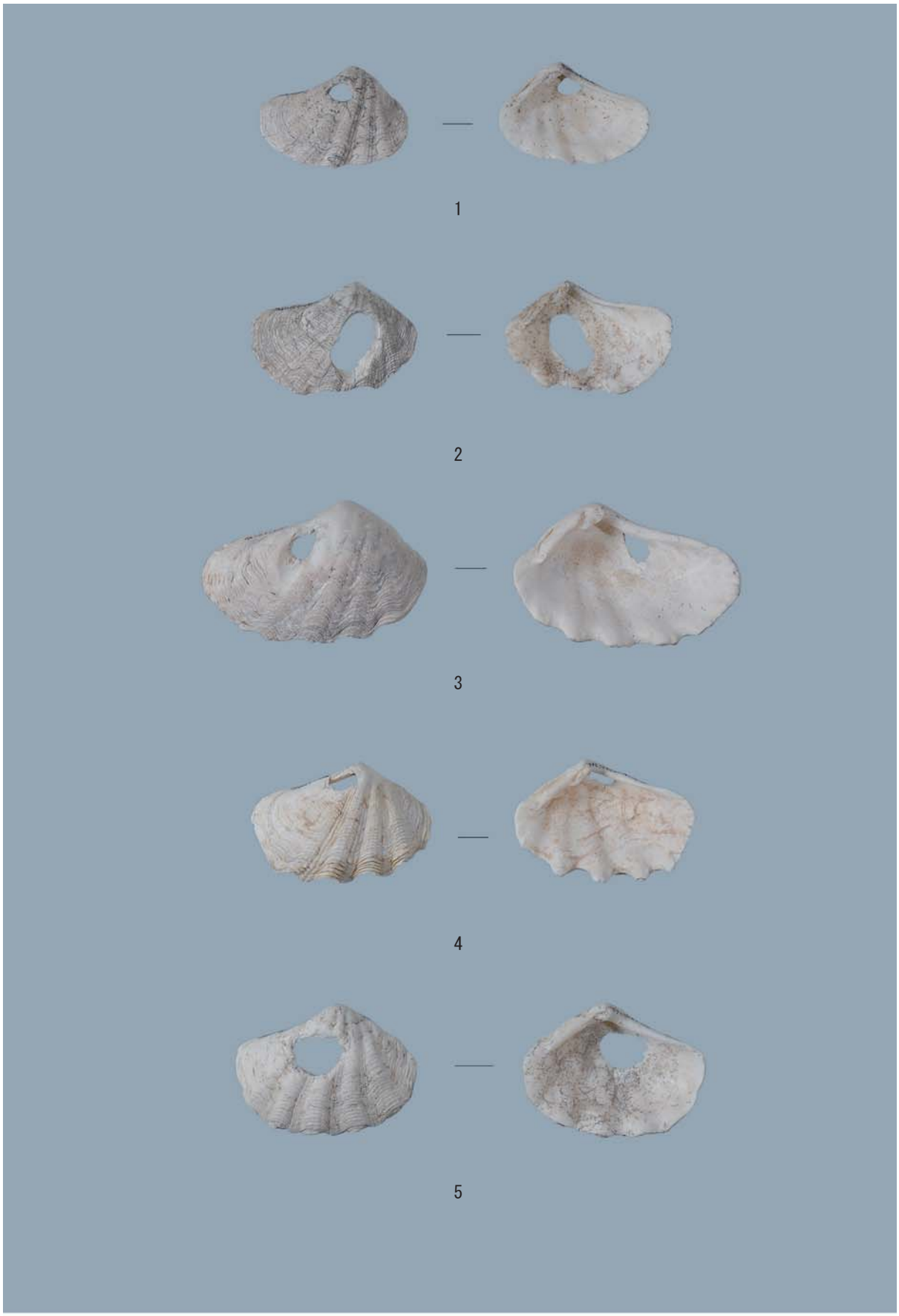


図版５（第８図）土器　底部

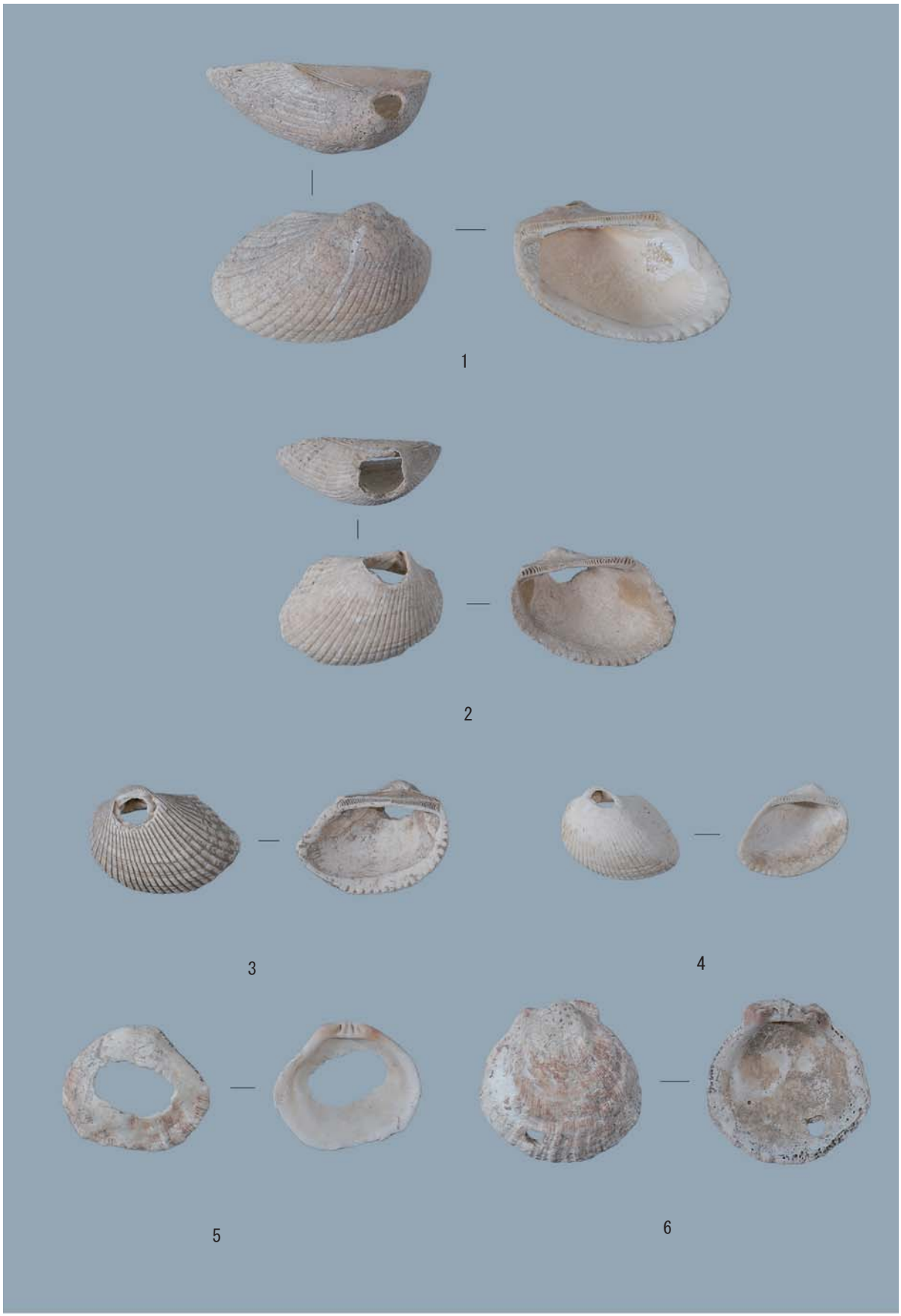


図版 6（第 9 図）貝 錘

図版７（第10図）貝 錘

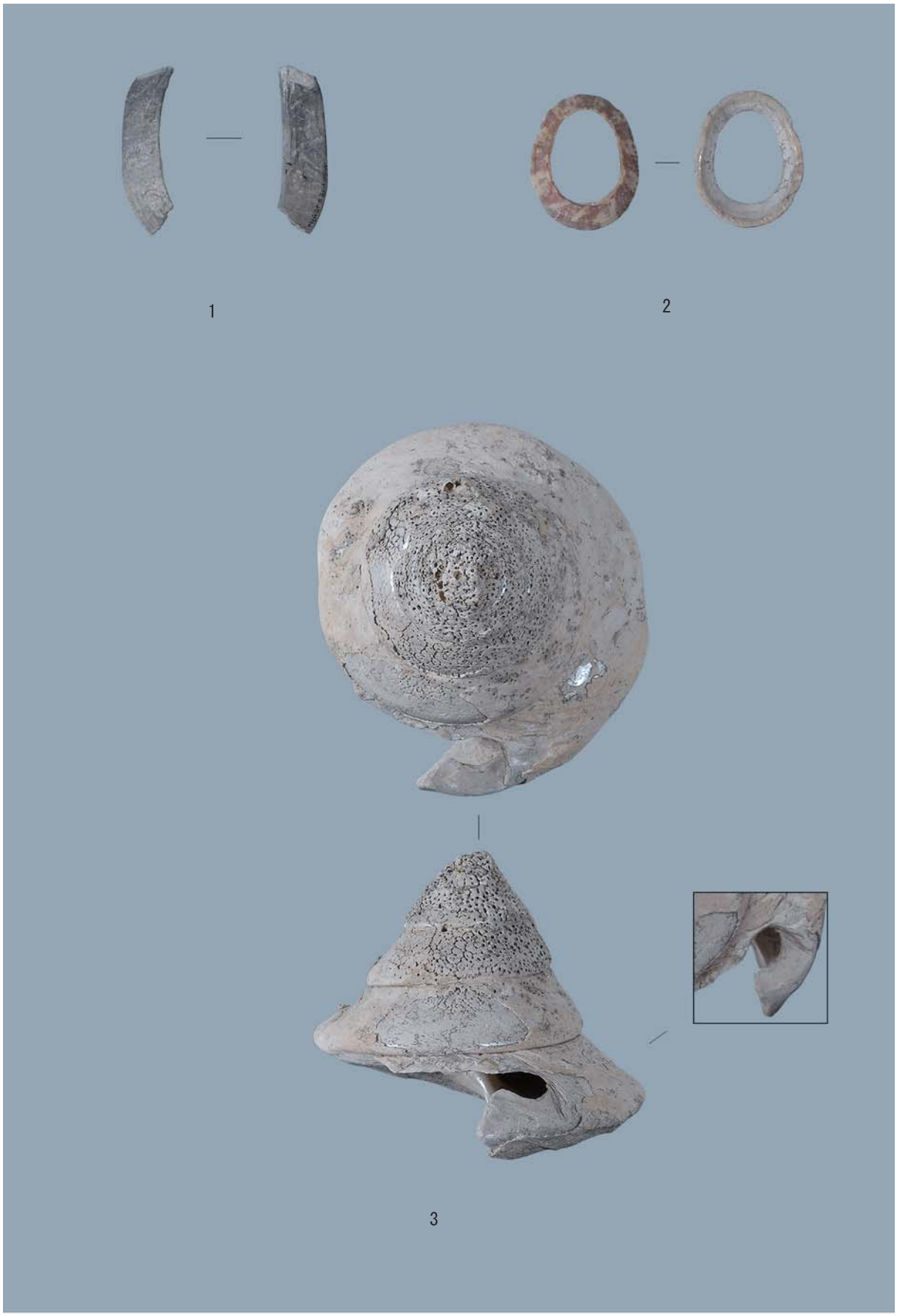


図版８（第11図）貝 錘

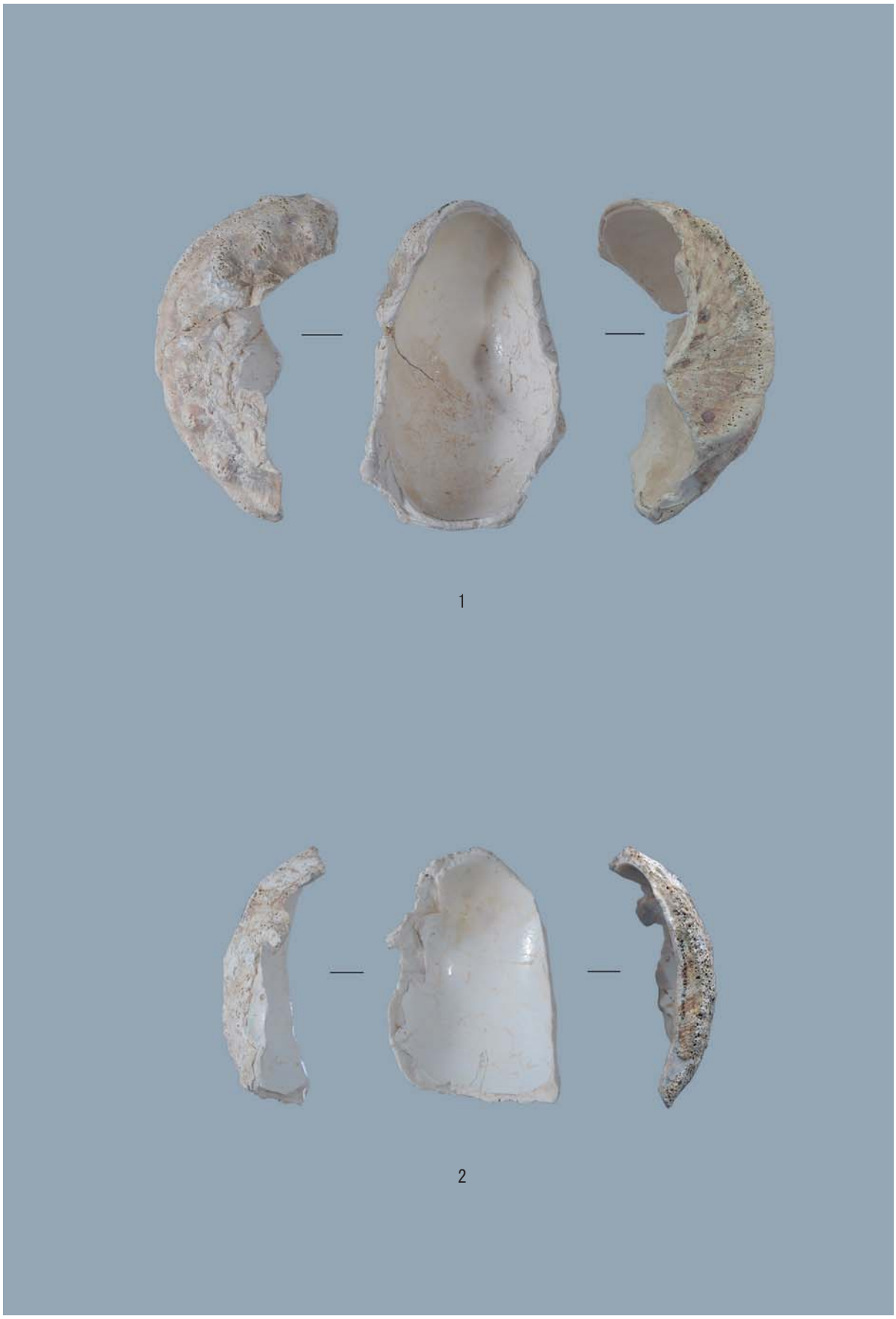


図版 9 （第12図）貝 錘

図版10（第13図）貝 錘



図版11（第14図）貝輪（１・２）、有孔製品（３）



図版12（第15図）貝 匙

図版13（第16図）石斧（１）、骨製加工品（２・３）

報　告　書　抄　録

ふりがな 書名	な　は　し　ない　い　せき 那　覇　市　内　遺　跡　Ⅴ
副書名	崎樋川貝塚Ｂ
巻次	那覇市文化財調査報告書
シリーズ名	那覇市文化財調査報告書
シリーズ番号	第９４集
編著者名	玉城安明
編集機関	那覇市教育委員会 文化財課
所　在　地	〒900-8553　沖縄県那覇市前島3-25-1　　TEL098-891-3501
発行年月日	西暦　20012年　　３月　　30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
さちひじゃーかいづか 崎樋川貝塚Ｂ	なはしおお 那覇市大 あざあめく 字天久 しょうじひがわ 小字樋川 はら 原	47201		26度 14分 01秒 ～ 26度 14分 15秒 (世界測地系)	127度 41分 06秒 ～ 127度 41分 00秒 (世界測地系)	20070723 ～ 20070803	９０㎡	セレモニーホール建設に係る緊急発掘調査

所収遺跡名	種別	主要な時代	主要な遺構	主要な遺物	備考
さちひじゃーかいづか 崎樋川貝塚Ｂ	貝塚	沖縄貝塚時代 後期		土器 貝錘 有孔貝製品 貝輪 貝匙 石斧	

那覇市文化財調査報告書第94集

那覇市内遺跡Ⅴ

―崎樋川貝塚Ｂ―

発行　2012（平成24）年３月30日
那覇市教育委員会
〒900－8553　沖縄県那覇市前島３－25－１
編集　那覇市教育委員会 文化財課
TEL　098－891－3501
FAX　098－891－3523
印刷　株式会社 東洋企画印刷　那覇営業所
〒901－0152　沖縄県那覇市小録３－12－１
TEL　098－857－2657